aws

管理ガイド

Amazon WorkDocs

Amazon WorkDocs: 管理ガイド

Table of Contents

注意: Amazon では、新しいカスタマーサインアップとアカウントのアップグレードは利用できなくなりました WorkDocs。移行手順については、「Amazon からデータを移行する方法 WorkDocs」を参照してください。

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。

Amazon WorkDocs とは何ですか？

Amazon WorkDocs は、フルマネージド型の安全なエンタープライズストレージおよび共有サービスであり、ユーザーの生産性を高める強力な管理制御とフィードバック機能を備えています。ファイルは、クラウド内に安全に保存されます。ユーザーのファイルは、ユーザーのみ、またはユーザーが指定したコントリビューターとビューワーのみが閲覧できます。ユーザーの組織のその他の方は、ユーザーが特別なアクセス許可を付与しない限り、ユーザーのいずれのファイルへもアクセスすることができません。

ユーザーはコラボレーション、または、レビューの目的で、その他の方とファイルを共用することができます。Amazon WorkDocs クライアントアプリケーションは、ファイルのインターネットメディアタイプに応じて、さまざまな種類のファイルの表示に使用されます。Amazon WorkDocs では、一般的なドキュメントおよびイメージ形式がサポートされており、追加のメディアタイプのサポートは常に追加されています。

詳細は、「Amazon WorkDocs」を参照してください。

Amazon WorkDocs へアクセスする

管理者は Amazon WorkDocs console (Amazon WorkDocs コンソール) を使用して、Amazon WorkDoc サイトの作成および無効化をおこないます。管理コントロールパネルを使用して、ユーザー、ストレージ、およびセキュリティの設定を管理できます。詳細については、「サイト管理者コントロールパネル WorkDocs からの Amazon の管理」および「Amazon WorkDocs ユーザーを招待して管理します」をご参照ください。

管理者以外のユーザーはクライアントアプリケーションを使用してファイルにアクセスします。Amazon WorkDocs コンソールや管理ダッシュボードを使用することはありません。Amazon WorkDocs には、いくつかの異なるクライアントアプリケーションとユーティリティが提供されています。

- ドキュメント管理とレビューに使用するウェブアプリケーション。
- ドキュメントレビューに使用するモバイルデバイス用ネイティブアプリケーション。
- Amazon WorkDocs Drive は、macOS または Windows デスクトップ上のフォルダを Amazon WorkDocs ファイルと同期するアプリケーションです。

ユーザーが Amazon WorkDocs クライアントをダウンロードしてファイルを編集する方法、またサポートされているファイルタイプの詳細については、以下を参照してください。

- [Amazon WorkDocs の使用を開始する]
- [ファイルを編集]
- [サポートされているファイルの種類]

料金

Amazon WorkDocs には料金前払いなどの義務はありません。アクティブなユーザーアカウントと、使用するストレージに対する料金のみです。 詳細については、[料金]を参照してください。

開始方法

Amazon WorkDocsの使用を開始する方法については、Amazon WorkDocs サイトを作成するを参照してください。

Amazon からのデータの移行 WorkDocs

Amazon WorkDocs には、 WorkDocs サイトからデータを移行するための 2 つの方法があります。このセクションでは、これらの方法の概要と、各移行方法を実行、トラブルシューティング、最適化するための詳細な手順へのリンクを提供します。

お客様は Amazon からデータをオフボードするための 2 つのオプションがあります WorkDocs。既存の一括ダウンロード機能 (方法 1) または新しいデータ移行ツール (方法 2) です。以下のトピックでは、両方の方法を使用する方法について説明します。

トピック

方法 1: ファイルを一括ダウンロードする

移行するファイルを制御したい場合は、手動で一括ダウンロードできます。この方法では、必要なファイルのみを選択し、ローカルドライブなどの別の場所にダウンロードできます。ファイルとフォルダは、 WorkDocs ウェブサイトまたは Amazon WorkDocs Drive からダウンロードできます。

次の点に注意してください。

- サイトユーザーは、以下の手順に従ってファイルをダウンロードできます。必要に応じて、共有フォルダを設定し、ユーザーにファイルをそのフォルダに移動させ、フォルダを別の場所にダウンロードさせることができます。所有権を自分に移管してダウンロードを実行することもできます。
- コメント付きの Microsoft Word ドキュメントをダウンロードするには、「Amazon WorkDocs ユーザーガイド」の「フィードバック付きの Word ドキュメントのダウンロード」を参照してください。
- 5 GB を超えるファイルをダウンロードするには、Amazon WorkDocs Drive を使用する必要があります。
- Amazon WorkDocs Drive を使用してファイルやフォルダをダウンロードする場合、ディレクトリ構造、ファイル名、ファイルコンテンツはそのまま残ります。ファイルの所有権、アクセス許可、およびバージョンは保持されません。

ウェブからのファイルのダウンロード

この方法を使用して、次の場合にファイルをダウンロードします。

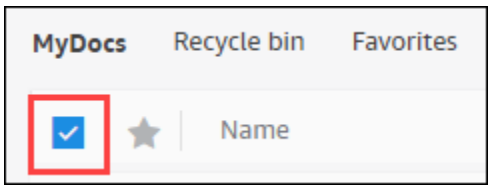
- 一部のファイルはサイトからのみダウンロードします。
- コメントを含む Word ドキュメントをダウンロードし、それらのコメントをそれぞれのドキュメントに保持します。移行ツールはすべてのコメントをダウンロードしますが、別の XML ファイルに書き込みます。その後、サイトユーザーはコメントを Word ドキュメントに関連付けるのに時間がかかる場合があります。

ウェブからファイルをダウンロードするには

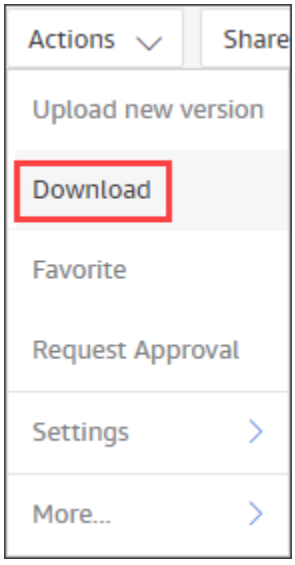
1. Amazon にサインインします WorkDocs。
2. 必要に応じて、ダウンロードするファイルを含むフォルダを開きます。
3. ダウンロードするファイルの横にあるチェックボックスをオンにします。

   -または-

   リストの上部にあるチェックボックスをオンにして、フォルダ内のすべてのファイルを選択します。



4. アクション メニューを開き、ダウンロードを選択します。



PC では、ダウンロードしたファイルはデフォルトで Downloads/WorkDocsDownloads/folder name になります。Macintosh では、ファイルはデフォルトでハードドライブ名 /Users/user name /WorkDocsDownloads になります。

ウェブからのフォルダのダウンロード

> **Note**
>
> フォルダをダウンロードするときは、フォルダ内のすべてのファイルもダウンロードします。フォルダ内のファイルの一部のみをダウンロードする場合は、不要なファイルを別の場所に移動するか、ごみ箱に移動してから、フォルダをダウンロードします。

ウェブからフォルダをダウンロードするには

1. Amazon にサインインする WorkDocs
2. ダウンロードする各フォルダの横にあるチェックボックスをオンにします。

   -または-

   フォルダを開き、ダウンロードするサブフォルダの横にあるチェックボックスをオンにします。
3. アクション メニューを開き、ダウンロードを選択します。

   PC では、ダウンロードしたフォルダはデフォルトで Downloads/WorkDocsDownloads/folder name になります。Macintosh では、ファイルはデフォルトでハードドライブ名 /Users/user name /WorkDocsDownloads になります。

WorkDocs ドライブを使用してファイルとフォルダをダウンロードする

> **Note**
>
> 次の手順を完了するには、Amazon WorkDocs Drive をインストールする必要があります。詳細については、「Amazon WorkDocs Drive ユーザーガイド」の「Amazon WorkDocs Drive のインストール」を参照してください。

WorkDocs Drive からファイルとフォルダをダウンロードするには

1. File Explorer または Finder を起動し、W: ドライブを開きます。
2. ダウンロードするフォルダまたはファイルを選択します。
3. 選択した項目をタップアンドホールド (右クリック) してコピー を選択し、コピーした項目を新しい場所に貼り付けます。

   -または-

   選択した項目を新しい場所にドラッグします。
4. Amazon WorkDocs Drive から元のファイルを削除します。

方法 2: 移行ツールを使用する

Amazon WorkDocs 移行ツールは、すべてのデータを WorkDocs サイトから移行する場合に使用します。

移行ツールは、データをサイトから Amazon Simple Storage Service バケットに移動します。このツールは、ユーザーごとに圧縮された ZIP ファイルを作成します。zip ファイルには、 WorkDocs サイト上の各エンドユーザーのすべてのファイルとフォルダ、バージョン、アクセス許可、コメント、注釈が含まれます。

トピック

前提条件

移行ツールを使用するには、次の項目が必要です。

- Amazon S3 バケット。Amazon S3 バケットの作成の詳細については、「Amazon S3 ユーザーガイド」の「バケットの作成Amazon S3」を参照してください。バケットは同じ IAM アカウントを

使用し、 WorkDocs サイトと同じリージョンに存在する必要があります。また、バケットへのパブリックアクセスをブロックする必要があります。詳細については、Amazon S3 ユーザーガイドの「Amazon S3 ストレージ へのパブリックアクセスのブロック」を参照してください。 Amazon S3

ファイルをアップロードする WorkDocs アクセス許可を Amazon に付与するには、次の例に示すようにバケットポリシーを設定します。このポリシーは、 `aws:SourceAccount`および`aws:SourceArn`条件キーを使用してポリシーの範囲を縮小します。これは、セキュリティのベストプラクティスです。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "AllowWorkDocsFileUpload",
            "Effect": "Allow",
            "Principal": {
                "Service": "workdocs.amazonaws.com"
            },
            "Action": "s3:PutObject",
            "Resource": "arn:aws:s3:::BUCKET-NAME/*",
            "Condition": {
                "StringEquals": {
                    "aws:SourceAccount": "AWS-ACCOUNT-ID"
                },
                "ArnLike": {
                    "aws:SourceArn": "arn:aws:workdocs:REGION:AWS-ACCOUNT-
ID:organization/WORKDOCS-DIRECTORY-ID"
                }
            }
        }
    ]
}
```

> **Note**
>
> - *WORKDOCS-DIRECTORY-ID* は、 WorkDocs サイトの組織 ID です。これは、AWS WorkDocs コンソールの「マイサイト」テーブルにあります。
> - バケットポリシーの設定の詳細については、Amazon S3コンソールを使用したバケットポリシーの追加」を参照してください。

- IAM ポリシー。 WorkDocs コンソールで移行を開始するには、IAM 呼び出し元のプリンシパルに、アクセス許可セットに次のポリシーがアタッチされている必要があります。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "AllowStartWorkDocsMigration",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "workdocs:StartInstanceExport"
            ],
            "Resource": [
                "arn:aws:workdocs:REGION:AWS-ACCOUNT-ID:organization/WORKDOCS-
DIRECTORY-ID"
            ]
        },
        {
            "Sid": "AllowDescribeWorkDocsMigrations",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "workdocs:DescribeInstanceExports",
                "workdocs:DescribeInstances"
            ],
            "Resource": [
                "*"
            ]
        },
        {
            "Sid": "AllowS3Validations",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "s3:HeadBucket",
                "s3:ListBucket",
                "s3:GetBucketPublicAccessBlock",
                "kms:ListAliases"
            ],
            "Resource": [
                "arn:aws:s3:::BUCKET-NAME"
            ]
        },
        {
            "Sid": "AllowS3ListMyBuckets",
```

```
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "s3:ListAllMyBuckets"
            ],
            "Resource": [
                "*"
            ]
        }
    ]
}
```

- オプションで、 AWS KMS キーを使用してバケット内の保管中のデータを暗号化できます。キーを指定しない場合、バケットの標準暗号化設定が適用されます。詳細については、「 Key AWS Management Service デベロッパーガイド」の「キーの作成」を参照してください。

  AWS KMS キーを使用するには、IAM ポリシーに次のステートメントを追加します。SYMMETRIC_DEFAULT タイプのアクティブなキーを使用する必要があります。

```
{
    "Sid": "AllowKMSMigration",
     "Effect": "Allow",
     "Action": [
         "kms:CreateGrant",
         "kms:DescribeKey"
     ],
     "Resource": [

         "arn:aws:kms:REGION:AWS-ACCOUNT-ID:key/KEY-RESOURCE-ID"
     ]
}
```

制限事項

移行ツールには以下の制限があります。

- このツールは、すべてのユーザーのアクセス許可、コメント、注釈を個別の CSV ファイルに書き込みます。そのデータは、対応するファイルに手動でマッピングする必要があります。
- アクティブなサイトのみを移行できます。
- このツールは、24 時間ごとにサイトごとに 1 回の成功した移行に制限されています。

- 同じサイトの同時移行を実行することはできませんが、異なるサイトに対して同時移行を実行できます。
- 各 zip ファイルは最大 50GBです。に 50GB を超えるデータがあるユーザーは WorkDocs 、複数の zip ファイルが Amazon S3 にエクスポートされます。
- このツールは 50 GB を超えるファイルをエクスポートしません。このツールは、ZIP ファイルと同じプレフィックスを持つ CSV ファイル内の 50 GB を超えるファイルを一覧表示します。例えば、/workdocs/*site-alias* /*created-timestamp-UTC* /skippedFiles.csv などです。リストされたファイルは、プログラムまたは手動でダウンロードできます。プログラムによるダウンロードの詳細については、「Amazon WorkDocs デベロッパーガイドhttps://docs.aws.amazon.com/workdocs/latest/developerguide/download-documents.html」の「」を参照してください。ファイルを手動でダウンロードする方法については、このトピックの前半の「方法 1」の手順を参照してください。
- 各ユーザーの zip ファイルには、所有するファイルやフォルダのみが含まれます。ユーザーと共有されているファイルやフォルダは、ファイルやフォルダを所有するユーザーの zip ファイルにあります。
- でフォルダが空の場合 (ネストされたファイル/フォルダが含まれていない場合) WorkDocs、エクスポートされません。
- 移行ジョブの開始後に作成されたデータ (ファイル、フォルダ、バージョン、コメント、注釈) が S3 のエクスポートされたデータに含まれることは保証されません。
- 複数のサイトを Amazon S3 バケットに移行できます。サイトごとに 1 つのバケットを作成する必要はありません。ただし、IAM ポリシーとバケットポリシーで複数のサイトが許可されていることを確認する必要があります。
- 移行すると、バケットに移行するデータの量に応じて Amazon S3 のコストが増加します。詳細については、Amazon S3の料金」ページを参照してください。

移行ツールの実行

次の手順では、Amazon WorkDocs 移行ツールの実行方法について説明します。

サイトを移行するには

1. https://console.aws.amazon.com/zocalo/ で Amazon WorkDocs コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、マイサイト を選択し、移行するサイトの横にあるラジオボタンを選択します。
3. Actions リストを開き、Migrate Data を選択します。

4. 「データ移行サイト名」ページで、Amazon S3 バケットの URI を入力します。

   -または-

   S3 を参照する」を選択し、次のステップに従います。

   a. 必要に応じて、バケットを検索します。

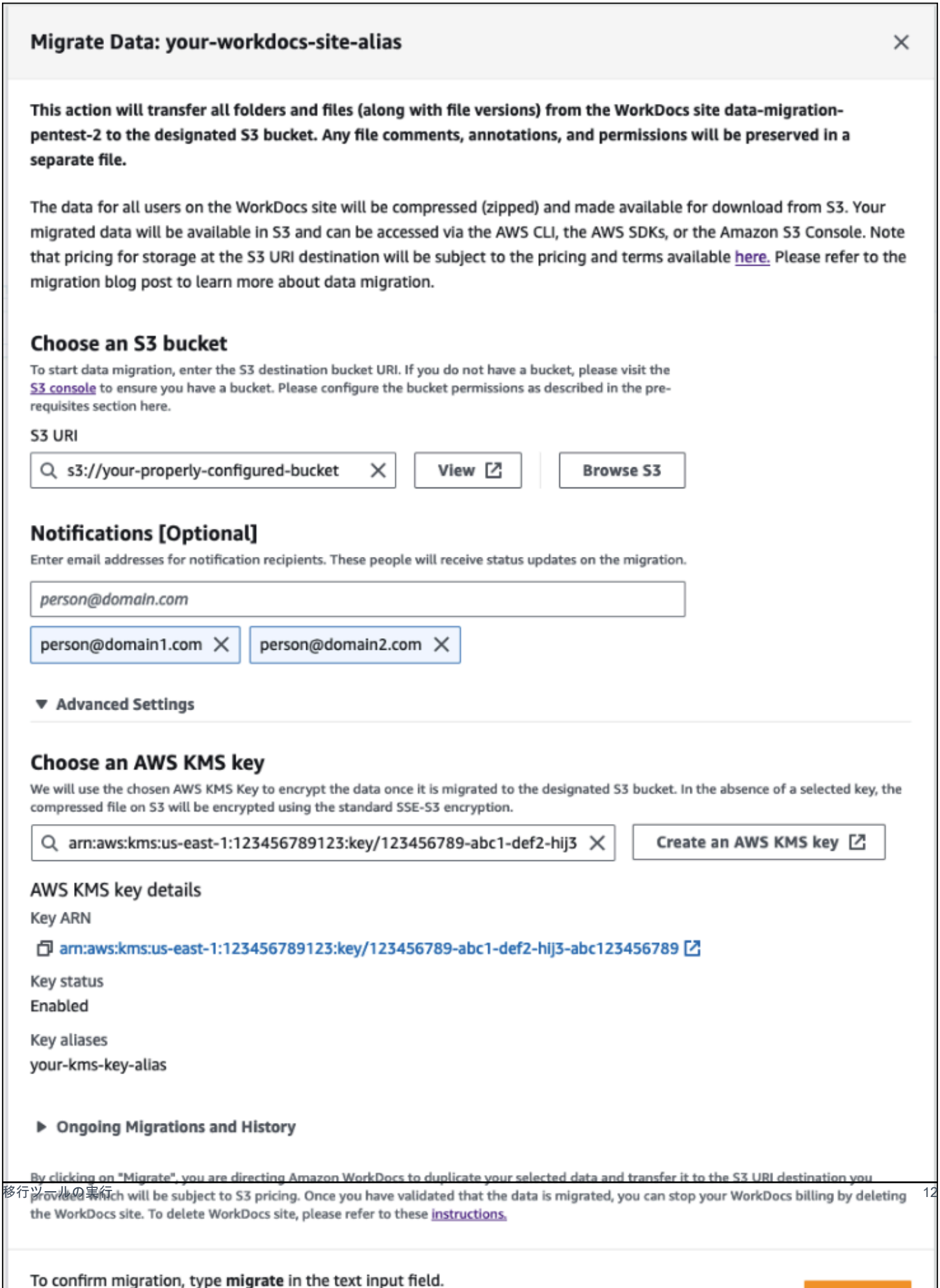
   b. バケット名の横にあるラジオボタンを選択し、「」を選択します。

5. (オプション) 通知 に、最大 5 つの E メールアドレスを入力します。このツールは、移行ステータスの E メールを各受信者に送信します。

6. (オプション) 詳細設定 で KMS キーを選択して、保存されたデータを暗号化します。

7. テキストボックス**migrate**に「」と入力して移行を確認し、「移行の開始」を選択します。

   インジケータが表示され、移行のステータスが表示されます。移行時間は、サイト内のデータ量によって異なります。


Migrate Data: your-workdocs-site-alias
This action will transfer all folders and files (along with file versions) from the WorkDocs site data-migration-pentest-2 to the designated S3 bucket. Any file comments, annotations, and permissions will be preserved in a separate file.
The data for all users on the WorkDocs site will be compressed (zipped) and made available for download from S3. Your migrated data will be available in S3 and can be accessed via the AWS CLI, the AWS SDKs, or the Amazon S3 Console. Note that pricing for storage at the S3 URI destination will be subject to the pricing and terms available here. Please refer to the migration blog post to learn more about data migration.
Choose an S3 bucket
To start data migration, enter the S3 destination bucket URI. If you do not have a bucket, please visit the S3 console to ensure you have a bucket. Please configure the bucket permissions as described in the pre-requisites section here.
S3 URI
s3://your-properly-configured-bucket
View
Browse S3
Notifications [Optional]
Enter email addresses for notification recipients. These people will receive status updates on the migration.
person@domain.com
person@domain1.com
person@domain2.com
Advanced Settings
Choose an AWS KMS key
We will use the chosen AWS KMS Key to encrypt the data once it is migrated to the designated S3 bucket. In the absence of a selected key, the compressed file on S3 will be encrypted using the standard SSE-S3 encryption.
arn:aws:kms:us-east-1:123456789123:key/123456789-abc1-def2-hij3
Create an AWS KMS key
AWS KMS key details
Key ARN
arn:aws:kms:us-east-1:123456789123:key/123456789-abc1-def2-hij3-abc123456789
Key status
Enabled
Key aliases
your-kms-key-alias
Ongoing Migrations and History
By clicking on "Migrate", you are directing Amazon WorkDocs to duplicate your selected data and transfer it to the S3 URI destination you provided which will be subject to S3 pricing. Once you have validated that the data is migrated, you can stop your WorkDocs billing by deleting the WorkDocs site. To delete WorkDocs site, please refer to these instructions.
To confirm migration, type migrate in the text input field.

移行が終了すると、次のようになります。

- このツールは、セットアップ中に入力したアドレスに「成功」メールを送信します。
- Amazon S3 バケットには、/workdocs/*site-alias*/*created-timestamp-UTC*/ フォルダが含まれます。そのフォルダには、サイトにデータがある各ユーザーの zip フォルダが含まれています。各 zip フォルダには、アクセス許可とコメントマッピング CSV ファイルなど、ユーザーのフォルダとファイルが含まれています。
- 移行前にユーザーがすべてのファイルを削除した場合、そのユーザーには zip フォルダは表示されません。
- バージョン – 複数のバージョンを持つドキュメントには、_version _creation タイムスタンプ識別子があります。タイムスタンプはエポックミリ秒を使用します。例えば、2 つのバージョンを持つ TestFile「.txt」という名前のドキュメントは、次のように表示されます。

```
        TestFile.txt (version 2 - latest version)
        TestFile_version_1707437230000.txt
```

- アクセス許可 – 次の例は、一般的なアクセス許可 CSV ファイルの内容を示しています。

```
PathToFile,PrincipalName,PrincipalType,Role
/mydocs/Projects,user1@domain.com,USER,VIEWER
/mydocs/Personal,user2@domain.com,USER,VIEWER
/mydocs/Documentation/Onboarding_Guide.xml,user2@domain.com,USER,CONTRIBUTOR
/mydocs/Documentation/Onboarding_Guide.xml,user1@domain.com,USER,CONTRIBUTOR
/mydocs/Projects/Initiative,user2@domain.com,USER,CONTRIBUTOR
/mydocs/Notes,user2@domain.com,USER,COOWNER
/mydocs/Notes,user1@domain.com,USER,COOWNER
/mydocs/Projects/Initiative/Structures.xml,user3@domain.com,USER,COOWNER
```

- コメント – 次の例は、一般的なコメント CSV ファイルの内容を示しています。

```
PathToFile,PrincipalName,PostedTimestamp,Text
/mydocs/Documentation/
Onboarding_Guide.xml,user1@domain.com,2023-12-28T20:57:40.781Z,TEST ANNOTATION 1
/mydocs/Documentation/
Onboarding_Guide.xml,user2@domain.com,2023-12-28T22:18:09.812Z,TEST ANNOTATION 2
/mydocs/Documentation/
Onboarding_Guide.xml,user3@domain.com,2023-12-28T22:20:04.099Z,TEST ANNOTATION 3
/mydocs/Documentation/
Onboarding_Guide.xml,user1@domain.com,2023-12-28T20:56:27.390Z,TEST COMMENT 1
```

```
/mydocs/Documentation/
Onboarding_Guide.xml,user2@domain.com,2023-12-28T22:17:10.348Z,TEST COMMENT 2
/mydocs/Documentation/
Onboarding_Guide.xml,user3@domain.com,2023-12-28T22:19:42.821Z,TEST COMMENT 3
/mydocs/Projects/Agora/
Threat_Model.xml,user1@domain.com,2023-12-28T22:21:09.930Z,TEST ANNOTATION 4
/mydocs/Projects/Agora/
Threat_Model.xml,user1@domain.com,2023-12-28T20:57:04.931Z,TEST COMMENT 4
```

- スキップされたファイル – 次の例は、一般的なスキップされたファイルの CSV ファイルの内容を示しています。ID を短縮し、読みやすくするために理由値をスキップしました。

```
FileOwner,PathToFile,DocumentId,VersionId,SkippedReason
user1@domain.com,/mydocs/LargeFile1.mp4,45e433b5469...,170899345...,The file is too
 large. Please notify the document owner...
user2@domain.com,/mydocs/LargeFile2.pdf,e87f725898c1...,170899696...,The file is too
 large. Please notify the document owner...
```

Amazon S3 から移行されたデータをダウンロードする

移行すると Amazon S3 のコストが増加するため、移行したデータを Amazon S3 から別のストレージソリューションにダウンロードできます。このトピックでは、移行したデータをダウンロードする方法について説明し、ストレージソリューションにデータをアップロードするための提案を提供します。

> **Note**
>
> 次の手順では、一度に 1 つのファイルまたはフォルダをダウンロードする方法について説明します。ファイルをダウンロードするその他の方法については、Amazon S3 ユーザーガイド」の「オブジェクトのダウンロード」を参照してください。

データをダウンロードするには

1. https://console.aws.amazon.com/s3/でAmazon S3 コンソールを開きます。
2. ターゲットバケットを選択し、サイトエイリアスに移動します。
3. zip フォルダの横にあるチェックボックスをオンにします。

   -または-

zip フォルダを開き、個々のユーザーのファイルまたはフォルダの横にあるチェックボックスをオンにします。

4. [ダウンロード] を選択します。

ストレージソリューションの提案

大規模なサイトでは、準拠の Linux ベースの Amazon マシンイメージを使用して EC2 インスタンスをプロビジョニングし、プログラムで Amazon S3 からデータをダウンロードし、データを解凍してから、ストレージプロバイダーまたはローカルディスクにアップロードすることをお勧めします。

移行のトラブルシューティング

以下のステップを試して、環境が正しく設定されていることを確認します。

- 移行が失敗すると、 WorkDocs コンソールの移行履歴タブにエラーメッセージが表示されます。エラーメッセージを確認します。
- Amazon S3 バケットの設定を確認します。
- 移行を再実行します。

問題が解決しない場合は、AWS Support までお問い合わせください。移行履歴テーブルにある WorkDocs サイト URL と移行ジョブ ID を含めます。

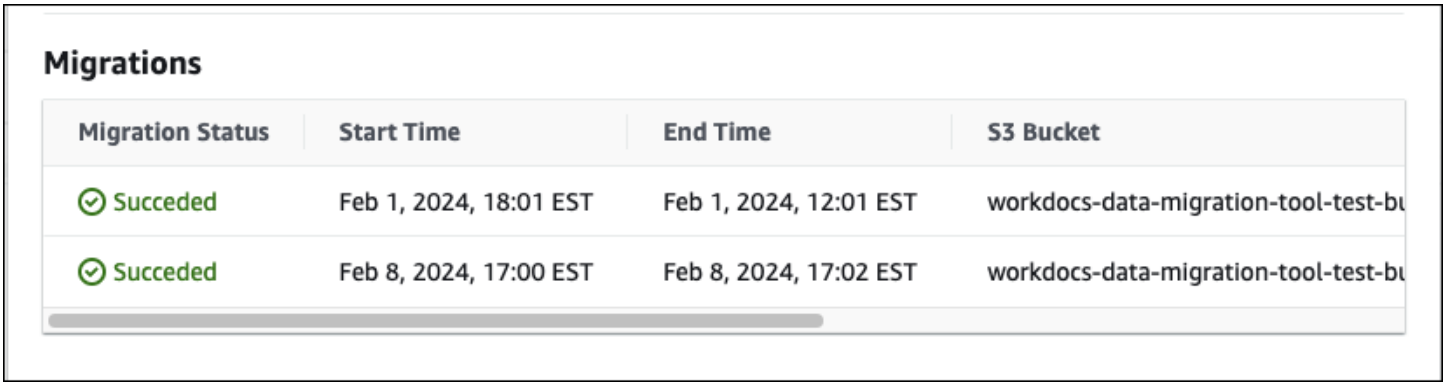
移行履歴の表示

次の手順では、移行履歴を表示する方法について説明します。

履歴を表示するには

1. https://console.aws.amazon.com/zocalo/ で Amazon WorkDocs コンソールを開きます。
2. 目的の WorkDocs サイトの横にあるラジオボタンを選択します。
3. Actions リストを開き、Migrate Data を選択します。
4. 「データサイト名の移行」ページで、「移行中」と「履歴」を選択します。

移行履歴は移行 の下に表示されます。次の画像は、一般的な履歴を示しています。


Migrations
Migration Status
Start Time
End Time
S3 Bucket
Succeded
Feb 1, 2024, 18:01 EST
Feb 1, 2024, 12:01 EST
workdocs-data-migration-tool-test-bu
Succeded
Feb 8, 2024, 17:00 EST
Feb 8, 2024, 17:02 EST
workdocs-data-migration-tool-test-bu

Amazon の前提条件 WorkDocs

新しい Amazon WorkDocs サイトをセットアップしたり、既存のサイトを管理したりするには、次のタスクを完了する必要があります。

にサインアップする AWS アカウント

をお持ちでない場合 AWS アカウントで、次の手順を実行して作成します。

にサインアップするには AWS アカウント

1. https://portal.aws.amazon.com/billing/サインアップ を開きます。
2. オンラインの手順に従います。

   サインアップ手順の一環として、通話呼び出しを受け取り、電話キーパッドで検証コードを入力するように求められます。

   にサインアップするとき AWS アカウント、 AWS アカウントのルートユーザー が作成されます。ルートユーザーはすべての にアクセスできます AWS のサービス アカウントの および リソース。セキュリティのベストプラクティスとして、ユーザーに管理アクセスを割り当て、ルートユーザーのみを使用してルートユーザーアクセスが必要なタスクを実行してください。

AWS サインアッププロセスが完了すると、 から確認メールが送信されます。https://aws.amazon.com/ に移動し、マイアカウント を選択すると、いつでも現在のアカウントアクティビティを表示し、アカウントを管理できます。

管理アクセスを持つユーザーを作成する

にサインアップした後 AWS アカウント、 のセキュリティ保護 AWS アカウントのルートユーザー、有効化 AWS IAM Identity Center、および 管理ユーザーを作成して、日常的なタスクにルートユーザーを使用しないようにします。

のセキュリティ保護 AWS アカウントのルートユーザー

1. にサインインします。AWS Management Console ルートユーザーを選択し、 AWS アカウント E メールアドレス。次のページでパスワードを入力します。

ルートユーザーを使用してサインインする方法については、「」の「ルートユーザーとしてサインインする」を参照してください。 AWS サインイン ユーザーガイド 。

2. ルートユーザーの多要素認証 (MFA) を有効にします。

   手順については、「 の仮想MFAデバイスの有効化」を参照してください。 AWS アカウントIAM ユーザーガイドのルートユーザー (コンソール) 。

管理アクセスを持つユーザーを作成する

1. IAM Identity Center を有効にします。

   手順については、「 の有効化」を参照してください。 AWS IAM Identity Center ()AWS IAM Identity Center ユーザーガイド 。

2. IAM Identity Center で、ユーザーに管理アクセス権を付与します。

   の使用に関するチュートリアル IAM アイデンティティセンターディレクトリ ID ソースとして、「デフォルトを使用してユーザーアクセスを設定する」を参照してください。 IAM アイデンティティセンターディレクトリ ()AWS IAM Identity Center ユーザーガイド 。

管理アクセス権を持つユーザーとしてサインインする

- IAM Identity Center ユーザーでサインインするには、IAMIdentity Center ユーザーの作成時に E メールアドレスにURL送信されたサインインを使用します。

  IAM Identity Center ユーザーを使用してサインインする方法については、「 へのサインイン」を参照してください。 AWS の アクセスポータル AWS サインイン ユーザーガイド 。

追加のユーザーにアクセス権を割り当てる

1. IAM Identity Center で、最小特権のアクセス許可を適用するベストプラクティスに従うアクセス許可セットを作成します。

   手順については、「」の「アクセス許可セットの作成」を参照してください。 AWS IAM Identity Center ユーザーガイド 。

2. グループにユーザーを割り当て、そのグループにシングルサインオンアクセス権を割り当てます。

手順については、「」の「グループの追加」を参照してください。 AWS IAM Identity Center ユーザーガイド 。

Amazon のセキュリティ WorkDocs

のクラウドセキュリティが最優先事項 AWS です。お客様は AWS 、最もセキュリティに敏感な組織の要件を満たすように構築されたデータセンターとネットワークアーキテクチャの恩恵を受けることができます。

セキュリティは、 AWS とユーザーの間で責任を共有します。責任共有モデルでは、これをクラウドのセキュリティおよびクラウド内のセキュリティとして説明しています。

- クラウドのセキュリティ – AWS クラウドで AWS サービスを実行するインフラストラクチャを保護する AWS 責任があります。 は、安全に使用できるサービス AWS も提供します。AWS コンプライアンスプログラムの一環として、サードパーティーの監査が定期的にセキュリティの有効性をテストおよび検証しています。Amazon に適用されるコンプライアンスプログラムについては WorkDocs、AWS 「コンプライアンスプログラムによる対象範囲内のサービス」を参照してください。
- クラウドのセキュリティ – 使用する AWS サービスによって、お客様の責任が決まります。また、お客様は、 お客様のデータの機密性、企業の要件、および適用可能な法律や規制といった他の要因 についても責任を担います。このセクションのトピックは、Amazon を使用する際に責任共有モデルを適用する方法を理解するのに役立ちます WorkDocs。

> **Note**
>
> WorkDocs 組織内のユーザーは、ファイルにリンクまたは招待を送信することで、組織外のユーザーとコラボレーションできます。ただし、これは Active Directory Connector を使用するサイトにのみ適用されます。サイトの共有リンク設定を参照して、会社の要件に最も適したオプションを選択します。

以下のトピックでは、セキュリティとコンプライアンスの目的を満たす WorkDocs ように Amazon を設定する方法を示します。また、Amazon WorkDocs リソースのモニタリングと保護に役立つ他の AWS サービスの使用方法についても説明します。

トピック

- Amazon の ID とアクセスの管理 WorkDocs
- Amazon でのログ記録とモニタリング WorkDocs
- Amazon のコンプライアンス検証 WorkDocs

- Amazon のレジリエンス WorkDocs
- Amazon のインフラストラクチャセキュリティ WorkDocs

Amazon の ID とアクセスの管理 WorkDocs

AWS Identity and Access Management （ IAM) は、管理者が AWS リソースへのアクセスを安全に制御 AWS のサービス するのに役立つ です。IAM 管理者は、Amazon WorkDocs リソースの使用を認証 (サインイン) および承認 (アクセス許可を持つ) できるユーザーを制御します。IAM は、追加料金なしで AWS のサービス 使用できる です。

トピック

- 対象者
- アイデンティティを使用した認証
- ポリシーを使用したアクセスの管理
- Amazon と の WorkDocs 連携方法 IAM
- Amazon WorkDocs ID ベースのポリシーの例
- Amazon WorkDocs ID とアクセスのトラブルシューティング

対象者

AWS Identity and Access Management （ IAM) の使用方法は、Amazon で実行する作業によって異なります WorkDocs。

サービスユーザー – Amazon WorkDocs サービスを使用してジョブを実行する場合、管理者は必要な認証情報とアクセス許可を提供します。作業により多くの Amazon WorkDocs 機能を使用するときは、追加のアクセス許可が必要になる場合があります。アクセスの管理方法を理解しておくと、管理者に適切な許可をリクエストするうえで役立ちます。Amazon の機能にアクセスできない場合は WorkDocs、「」を参照してくださいAmazon WorkDocs ID とアクセスのトラブルシューティング。

サービス管理者 – 社内の Amazon WorkDocs リソースを担当している場合は、Amazon へのフルアクセスが許可されている可能性があります WorkDocs。サービスユーザーがどの Amazon WorkDocs 機能やリソースにアクセスする必要があるかを判断するのはお客様の仕事です。その後、IAM管理者にリクエストを送信して、サービスユーザーのアクセス許可を変更する必要があります。このページの情報を確認して、 の基本概念を理解しますIAM。会社が Amazon IAMで を使用する方法の詳細については WorkDocs、「」を参照してくださいAmazon と の WorkDocs 連携方法 IAM。

IAM 管理者 – IAM管理者の場合は、Amazon へのアクセスを管理するポリシーの作成方法の詳細を知りたい場合があります WorkDocs。で使用できる Amazon WorkDocs ID ベースのポリシーの例を表示するにはIAM、「」を参照してくださいAmazon WorkDocs ID ベースのポリシーの例。

アイデンティティを使用した認証

認証は、アイデンティティ認証情報 AWS を使用して にサインインする方法です。として、ユーザーとして、またはロールを引き受けることで認証 (にサインイン AWS) される必要があります。AWS アカウントのルートユーザー IAM IAM

ID ソースを介して提供された認証情報を使用して、フェデレーティッド ID AWS として にサインインできます。 AWS IAM Identity Center （ IAM Identity Center) ユーザー、会社のシングルサインオン認証、Google または Facebook 認証情報は、フェデレーティッド ID の例です。フェデレーティッド ID としてサインインすると、管理者は以前にIAMロールを使用して ID フェデレーションをセットアップしていました。フェデレーション AWS を使用して にアクセスすると、間接的にロールを引き受けることになります。

ユーザーのタイプに応じて、 AWS Management Console または AWS アクセスポータルにサインインできます。へのサインインの詳細については AWS、 AWS サインイン ユーザーガイドの「 へのサインイン方法 AWS アカウント」を参照してください。

AWS プログラムで にアクセスする場合、 はソフトウェア開発キット (SDK) とコマンドラインインターフェイス (CLI) AWS を提供し、認証情報を使用してリクエストに暗号化して署名します。 AWS ツールを使用しない場合は、自分でリクエストに署名する必要があります。推奨される方法を使用してリクエストに署名する方法の詳細については、 IAM ユーザーガイドのAWS API「リクエストの署名バージョン 4」を参照してください。

使用する認証方法を問わず、追加セキュリティ情報の提供をリクエストされる場合もあります。例えば、 では、アカウントのセキュリティを高めるために多要素認証 (MFA) を使用する AWS ことをお勧めします。詳細については、AWS IAM Identity Center 「 ユーザーガイド」の「多要素認証」とIAM「 ユーザーガイド」のAWS 「多要素認証IAM」を参照してください。

IAM ユーザーとグループ

IAM ユーザーとは、1 人のユーザーまたはアプリケーションに対して特定のアクセス許可 AWS アカウント を持つ 内の ID です。可能であれば、パスワードやアクセスキーなどの長期的な認証情報を持つIAMユーザーを作成する代わりに、一時的な認証情報に依存することをお勧めします。ただし、IAMユーザーとの長期的な認証情報を必要とする特定のユースケースがある場合は、アクセスキーをローテーションすることをお勧めします。詳細については、IAM「 ユーザーガイド」の「長

期的な認証情報を必要とするユースケースのアクセスキーを定期的にローテーションする」を参照してください。

IAM グループは、IAMユーザーのコレクションを指定する ID です。グループとしてサインインすることはできません。グループを使用して、複数のユーザーに対して一度に権限を指定できます。多数のユーザーグループがある場合、グループを使用することで権限の管理が容易になります。例えば、という名前のグループがありIAMAdmins、そのグループにIAMリソースを管理するアクセス許可を付与できます。

ユーザーは、ロールとは異なります。ユーザーは 1 人の人または 1 つのアプリケーションに一意に関連付けられますが、ロールはそれを必要とする任意の人が引き受けるようになっています。ユーザーには永続的な長期の認証情報がありますが、ロールでは一時認証情報が提供されます。詳細については、「 ユーザーガイド」のIAM「ユーザーのユースケース」を参照してください。 IAM

IAM ロール

IAM ロールは、特定のアクセス許可 AWS アカウント を持つ 内の ID です。ユーザーと似ていますがIAM、特定の人物には関連付けられていません。でIAMロールを一時的に引き受けるには AWS Management Console、ユーザーからIAMロール (コンソール) に切り替えることができます。または AWS API オペレーションを AWS CLI 呼び出すか、カスタム を使用してロールを引き受けることができますURL。ロールを使用する方法の詳細については、 IAM ユーザーガイドの「ロールを引き受ける方法」を参照してください。

IAM 一時的な認証情報を持つ ロールは、次の状況で役立ちます。

- フェデレーションユーザーアクセス – フェデレーティッド ID に許可を割り当てるには、ロールを作成してそのロールの許可を定義します。フェデレーティッド ID が認証されると、その ID はロールに関連付けられ、ロールで定義されている許可が付与されます。フェデレーションのロールの詳細については、 IAM ユーザーガイドの「サードパーティー ID プロバイダー (フェデレーション) のロールを作成する」を参照してください。IAM Identity Center を使用する場合は、アクセス許可セットを設定します。ID が認証された後にアクセスできるものを制御するために、IAMIdentity Center はアクセス許可セットを のロールに関連付けますIAM。アクセス許可セットの詳細については、「AWS IAM Identity Center ユーザーガイド」の「アクセス許可セット」を参照してください。
- 一時的なIAMユーザーアクセス許可 – IAM ユーザーまたはロールは、特定のタスクに対して異なるアクセス許可を一時的に引き受けるIAMロールを引き受けることができます。
- クロスアカウントアクセス — IAMロールを使用して、別のアカウントの誰か (信頼できるプリンシパル) が自分のアカウントのリソースにアクセスすることを許可できます。クロスアカウントアクセスを許可する主な方法は、ロールを使用することです。ただし、一部の では AWS のサービ

ス、 (プロキシとしてロールを使用する代わりに) リソースに直接ポリシーをアタッチできます。クロスアカウントアクセスのロールとリソースベースのポリシーの違いについては、IAM「 ユーザーガイド」の「 のクロスアカウントリソースアクセスIAM」を参照してください。

- クロスサービスアクセス — 他の の機能 AWS のサービス を使用するものもあります AWS のサービス。例えば、 サービスで呼び出しを行うと、そのサービスが Amazon でアプリケーションを実行EC2したりAmazon S3にオブジェクトを保存したりするのが一般的です。サービスでは、呼び出し元プリンシパルの許可、サービスロール、またはサービスリンクロールを使用してこれを行う場合があります。
  - 転送アクセスセッション (FAS) – IAM ユーザーまたはロールを使用して でアクションを実行すると AWS、プリンシパルと見なされます。一部のサービスを使用する際に、アクションを実行することで、別のサービスの別のアクションがトリガーされることがあります。FAS は、を呼び出すプリンシパルのアクセス許可を AWS のサービス、ダウンストリームサービス AWS のサービス へのリクエストリクエストと組み合わせて使用します。FAS リクエストは、サービスが他の AWS のサービス または リソースとのやり取りを完了する必要があるリクエストを受け取った場合にのみ行われます。この場合、両方のアクションを実行するための権限が必要です。FAS リクエストを行う際のポリシーの詳細については、「アクセスセッションの転送」を参照してください。
  - サービスロール – サービスロールは、ユーザーに代わってアクションを実行するためにサービスが引き受けるIAMロールです。IAM 管理者は、 内からサービスロールを作成、変更、削除できますIAM。詳細については、「 ユーザーガイド」の「 にアクセス許可を委任するロールを作成する AWS のサービス」を参照してください。 IAM
  - サービスにリンクされたロール – サービスにリンクされたロールは、 にリンクされたサービスロールの一種です AWS のサービス。サービスは、ユーザーに代わってアクションを実行するロールを引き受けることができます。サービスにリンクされたロールは に表示され AWS アカウント 、 サービスによって所有されます。IAM 管理者は、サービスにリンクされたロールのアクセス許可を表示できますが、編集することはできません。
- Amazon で実行されているアプリケーション EC2 – IAMロールを使用して、EC2インスタンスで実行され、 AWS CLI または AWS API リクエストを行うアプリケーションの一時的な認証情報を管理できます。これは、EC2インスタンス内にアクセスキーを保存するよりも望ましいです。 AWS ロールをEC2インスタンスに割り当て、そのすべてのアプリケーションで使用できるようにするには、インスタンスにアタッチされたインスタンスプロファイルを作成します。インスタンスプロファイルには ロールが含まれており、EC2インスタンスで実行されているプログラムが一時的な認証情報を取得できるようにします。詳細については、「 ユーザーガイド」のIAM「ロールを使用して Amazon EC2インスタンスで実行されているアプリケーションにアクセス許可を付与する」を参照してください。 IAM

ポリシーを使用したアクセスの管理

でアクセスを制御するには、ポリシー AWS を作成し、 AWS ID またはリソースにアタッチします。ポリシーは AWS 、アイデンティティまたはリソースに関連付けられているときにアクセス許可を定義する オブジェクトです。 は、プリンシパル (ユーザー、ルートユーザー、またはロールセッション) がリクエストを行うときに、これらのポリシー AWS を評価します。ポリシーでの権限により、リクエストが許可されるか拒否されるかが決まります。ほとんどのポリシーはJSONドキュメント AWS として に保存されます。JSON ポリシードキュメントの構造と内容の詳細については、「 ユーザーガイド」のJSON「ポリシーの概要」を参照してください。 IAM

管理者はポリシーを使用して AWS JSON、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルがどのリソースに対してどのような条件下でアクションを実行できるかということです。

デフォルトでは、ユーザーやロールに権限はありません。必要なリソースに対してアクションを実行するアクセス許可をユーザーに付与するには、IAM管理者はIAMポリシーを作成できます。その後、管理者はIAMポリシーをロールに追加し、ユーザーはロールを引き受けることができます。

IAM ポリシーは、 オペレーションの実行に使用する方法に関係なく、アクションのアクセス許可を定義します。例えば、`iam:GetRole`アクションを許可するポリシーがあるとします。そのポリシーを持つユーザーは、 AWS Management Console、、 AWS CLIまたは AWS からロール情報を取得できますAPI。

アイデンティティベースのポリシー

ID ベースのポリシーは、IAMユーザー、ユーザーのグループ、ロールなどの ID にアタッチできるJSONアクセス許可ポリシードキュメントです。これらのポリシーは、ユーザーとロールが実行できるアクション、リソース、および条件をコントロールします。ID ベースのポリシーを作成する方法については、IAM「 ユーザーガイド」の「カスタマーマネージドポリシーによるカスタムIAMアクセス許可の定義」を参照してください。

アイデンティティベースのポリシーは、さらにインラインポリシーまたはマネージドポリシーに分類できます。インラインポリシーは、単一のユーザー、グループ、またはロールに直接埋め込まれています。マネージドポリシーは、 内の複数のユーザー、グループ、ロールにアタッチできるスタンドアロンポリシーです AWS アカウント。管理ポリシーには AWS 、管理ポリシーとカスタマー管理ポリシーが含まれます。マネージドポリシーまたはインラインポリシーを選択する方法については、IAM ユーザーガイドの「マネージドポリシーとインラインポリシーの選択」を参照してください。

リソースベースのポリシー

リソースベースのポリシーは、リソースにアタッチするJSONポリシードキュメントです。リソースベースのポリシーの例としては、IAMロール信頼ポリシー と Amazon S3 バケットポリシー があります。リソースベースのポリシーをサポートするサービスでは、サービス管理者はポリシーを使用して特定のリソースへのアクセスをコントロールできます。ポリシーがアタッチされているリソースの場合、指定されたプリンシパルがそのリソースに対して実行できるアクションと条件は、ポリシーによって定義されます。リソースベースのポリシーでは、プリンシパルを指定する必要があります。プリンシパルには、アカウント、ユーザー、ロール、フェデレーティッドユーザー、または を含めることができます AWS のサービス。

リソースベースのポリシーは、そのサービス内にあるインラインポリシーです。リソースベースのポリシーIAMでは、 から AWS 管理ポリシーを使用することはできません。

アクセスコントロールリスト

アクセスコントロールリスト (ACLs) は、どのプリンシパル (アカウントメンバー、ユーザー、またはロール) がリソースにアクセスするためのアクセス許可を持っているかを制御します。ACLs はリソースベースのポリシーに似ていますが、JSONポリシードキュメント形式は使用しません。

Amazon S3、および Amazon VPCは AWS WAF、 をサポートするサービスの例ですACLs。の詳細についてはACLs、「Amazon Simple Storage Service デベロッパーガイド」の「アクセスコントロールリスト (ACL) 概要」を参照してください。

その他のポリシータイプ

AWS は、追加の低頻度ポリシータイプをサポートします。これらのポリシータイプでは、より一般的なポリシータイプで付与された最大の権限を設定できます。

- アクセス許可の境界 – アクセス許可の境界は、アイデンティティベースのポリシーがIAMエンティティ (IAMユーザーまたはロール) に付与できる最大アクセス許可を設定する高度な機能です。エンティティにアクセス許可の境界を設定できます。結果として得られる権限は、エンティティのアイデンティティベースポリシーとそのアクセス許可の境界の共通部分になります。`Principal` フィールドでユーザーまたはロールを指定するリソースベースのポリシーでは、アクセス許可の境界は制限されません。これらのポリシーのいずれかを明示的に拒否した場合、権限は無効になります。アクセス許可の境界の詳細については、IAM「 ユーザーガイド」のIAM「エンティティのアクセス許可の境界」を参照してください。
- サービスコントロールポリシー (SCPs) – SCPs は、 の組織または組織単位 (OU) の最大アクセス許可を指定するJSONポリシーです AWS Organizations。 AWS Organizations は、ビジネスが

所有する複数の をグループ化して一元管理するためのサービス AWS アカウント です。組織内のすべての機能を有効にすると、サービスコントロールポリシー (SCPs) を任意のアカウントまたはすべてのアカウントに適用できます。は、各 を含むメンバーアカウントのエンティティのアクセス許可SCPを制限します AWS アカウントのルートユーザー。Organizations と の詳細についてはSCPs、AWS Organizations 「 ユーザーガイド」の「サービスコントロールポリシー」を参照してください。

- セッションポリシー - セッションポリシーは、ロールまたはフェデレーションユーザーの一時的なセッションをプログラムで作成する際にパラメータとして渡す高度なポリシーです。結果としてセッションの権限は、ユーザーまたはロールのアイデンティティベースポリシーとセッションポリシーの共通部分になります。また、リソースベースのポリシーから権限が派生する場合もあります。これらのポリシーのいずれかを明示的に拒否した場合、権限は無効になります。詳細については、「 ユーザーガイド」の「セッションポリシー」を参照してください。 IAM

> **Note**
>
> Amazon WorkDocs は Slack Organizations のサービスコントロールポリシーをサポートしていません。

複数のポリシータイプ

1 つのリクエストに複数のタイプのポリシーが適用されると、結果として作成される権限を理解するのがさらに難しくなります。が複数のポリシータイプが関与する場合にリクエストを許可するかどうか AWS を決定する方法については、「 ユーザーガイド」の「ポリシー評価ロジック」を参照してください。 IAM

Amazon と の WorkDocs 連携方法 IAM

IAM を使用して Amazon へのアクセスを管理する前に WorkDocs、Amazon で使用できるIAM機能を理解しておく必要があります WorkDocs。Amazon WorkDocs およびその他の AWS のサービスが とどのように連携するかの概要についてはIAM、 IAM ユーザーガイドのAWS 「 と連携する のサービスIAM」を参照してください。

トピック

- Amazon WorkDocs アイデンティティベースのポリシー
- Amazon WorkDocs リソースベースのポリシー
- Amazon WorkDocs タグに基づく認可

- Amazon WorkDocs IAM ロール

Amazon WorkDocs アイデンティティベースのポリシー

IAM ID ベースのポリシーでは、許可または拒否されたアクションを指定できます。Amazon は特定のアクション WorkDocs をサポートしています。JSON ポリシーで使用する要素については、 IAM ユーザーガイドのIAMJSON「ポリシー要素リファレンス」を参照してください。

アクション

管理者はポリシーを使用して AWS JSON、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルがどのリソースに対してどのような条件下でアクションを実行できるかということです。

JSON ポリシーの `Action`要素は、ポリシー内のアクセスを許可または拒否するために使用できるアクションを記述します。ポリシーアクションは通常、関連付けられた AWS APIオペレーションと同じ名前です。一致するAPIオペレーションがないアクセス許可のみのアクションなど、いくつかの例外があります。また、ポリシーに複数のアクションが必要なオペレーションもあります。これらの追加アクションは、依存アクションと呼ばれます。

このアクションは、関連付けられたオペレーションを実行するための権限を付与するポリシーで使用されます。

Amazon のポリシーアクションでは、アクションの前に次のプレフィックス WorkDocs を使用します。 `workdocs:`例えば、Amazon WorkDocs `DescribeUsers` APIオペレーションを実行するアクセス許可をユーザーに付与するには、ポリシーに `workdocs:DescribeUsers`アクションを含めます。ポリシーステートメントには、`Action` または `NotAction` 要素を含める必要があります。Amazon は、このサービスで実行できるタスクを記述する独自のアクションセット WorkDocs を定義します。

単一ステートメントに複数アクションを指定するには、次のようにカンマで区切ります:

```
"Action": [
      "workdocs:DescribeUsers",
      "workdocs:CreateUser"
```

ワイルドカード (*) を使用して複数アクションを指定できます。例えば、`Describe` という単語で始まるすべてのアクションを指定するには、次のアクションを含めます。

```
"Action": "workdocs:Describe*"
```

> **Note**
>
> 下位互換性を確保するには、 zocalo アクションを含めます。例えば:
>
> ```
> "Action": [
> "zocalo:*",
> "workdocs:*"
> ],
> ```

Amazon WorkDocs アクションのリストを確認するには、「 ユーザーガイド」の「Amazon で定義されるアクション WorkDocs」を参照してください。 IAM

リソース

Amazon WorkDocs は、ポリシーARNsでのリソースの指定をサポートしていません。

条件キー

Amazon WorkDocs はサービス固有の条件キーを提供しませんが、一部のグローバル条件キーの使用をサポートしています。すべての AWS グローバル条件キーを確認するには、 ユーザーガイドのAWS 「グローバル条件コンテキストキー」を参照してください。 IAM

例

Amazon WorkDocs ID ベースのポリシーの例を表示するには、「」を参照してくださいAmazon WorkDocs ID ベースのポリシーの例。

Amazon WorkDocs リソースベースのポリシー

Amazon WorkDocs はリソースベースのポリシーをサポートしていません。

Amazon WorkDocs タグに基づく認可

Amazon WorkDocs は、リソースのタグ付けやタグに基づくアクセスの制御をサポートしていません。

Amazon WorkDocs IAM ロール

IAM ロールは、特定のアクセス許可を持つ AWS アカウント内のエンティティです。

Amazon での一時的な認証情報の使用 WorkDocs

フェデレーションでサインインしたり、IAMロールを引き受けたり、クロスアカウントロールを引き受けたりするには、一時的な認証情報を使用することを強くお勧めします。AssumeRole や などのオペレーションを呼び出す AWS STS APIことで、一時的なセキュリティ認証情報を取得しますGetFederationToken。

Amazon は一時的な認証情報の使用 WorkDocs をサポートしています。

サービスリンクロール

サービスにリンクされたロールを使用すると、 AWS サービスが他のサービスのリソースにアクセスして、ユーザーに代わってアクションを実行できます。サービスにリンクされたロールはIAMアカウントに表示され、サービスによって所有されます。IAM 管理者は、サービスにリンクされたロールのアクセス許可を表示できますが、編集することはできません。

Amazon WorkDocs は、サービスにリンクされたロールをサポートしていません。

サービスロール

この機能により、ユーザーに代わってサービスがサービスロールを引き受けることが許可されます。このロールにより、サービスがお客様に代わって他のサービスのリソースにアクセスし、アクションを完了することが許可されます。サービスロールはIAMアカウントに表示され、アカウントによって所有されます。つまり、IAM管理者はこのロールのアクセス許可を変更できます。ただし、それにより、サービスの機能が損なわれる場合があります。

Amazon WorkDocs はサービスロールをサポートしていません。

Amazon WorkDocs ID ベースのポリシーの例

> **Note**
>
> セキュリティを強化するには、可能な限りユーザーではなくフェデレーティッドIAMユーザーを作成します。

デフォルトでは、IAMユーザーとロールには Amazon WorkDocs リソースを作成または変更するアクセス許可がありません。また、 AWS Management Console、 AWS CLI、または を使用してタスクを実行することはできません AWS API。IAM 管理者は、ユーザーとロールに必要な特定のリソース

に対して特定のAPIオペレーションを実行するアクセス許可を付与するIAMポリシーを作成する必要があります。その後、管理者は、これらのアクセス許可を必要とするIAMユーザーまたはグループにこれらのポリシーをアタッチする必要があります。

> **Note**
>
> 下位互換性を確保するため、ポリシーに zocalo アクションを含めます。例:

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
            "zocalo:*",
            "workdocs:*"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

これらのポリシードキュメント例を使用して IAM ID ベースのJSONポリシーを作成する方法については、IAM「 ユーザーガイド」の「 JSONタブでのポリシーの作成」を参照してください。

トピック

- ポリシーのベストプラクティス
- Amazon WorkDocs コンソールの使用
- 自分の権限の表示をユーザーに許可する
- Amazon WorkDocs リソースへの読み取り専用アクセスをユーザーに許可する
- Amazon WorkDocs アイデンティティベースのポリシーの例

ポリシーのベストプラクティス

ID ベースのポリシーは、アカウント内の Amazon WorkDocs リソースを作成、アクセス、または削除できるかどうかを決定します。これらのアクションを実行すると、 AWS アカウントに料金が発生

する可能性があります。アイデンティティベースポリシーを作成したり編集したりする際には、以下のガイドラインと推奨事項に従ってください:

- AWS マネージドポリシーを開始し、最小権限のアクセス許可に移行 – ユーザーとワークロードへのアクセス許可の付与を開始するには、多くの一般的なユースケースのアクセス許可を付与するAWS マネージドポリシーを使用します。これらは で使用できます AWS アカウント。ユースケースに固有の AWS カスタマー管理ポリシーを定義することで、アクセス許可をさらに減らすことをお勧めします。詳細については、IAM「 ユーザーガイド」の「 管理AWS ポリシー」またはジョブ機能の 管理ポリシーを参照してください。 AWS
- 最小権限のアクセス許可を適用する – IAMポリシーでアクセス許可を設定する場合、タスクの実行に必要なアクセス許可のみを付与します。これを行うには、特定の条件下で特定のリソースに対して実行できるアクションを定義します。これは、最小特権アクセス許可とも呼ばれています。IAM を使用してアクセス許可を適用する方法の詳細については、IAM「 ユーザーガイド」の「 のポリシーとアクセス許可IAM」を参照してください。
- IAM ポリシーの条件を使用してアクセスをさらに制限する – ポリシーに条件を追加して、アクションとリソースへのアクセスを制限できます。例えば、ポリシー条件を記述して、すべてのリクエストを を使用して送信する必要があることを指定できますSSL。また、 などの特定の を通じてサービスアクションが使用されている場合 AWS のサービス、 条件を使用してサービスアクションへのアクセスを許可することもできます AWS CloudFormation。詳細については、IAM「 ユーザーガイド」のIAMJSON「ポリシー要素: 条件」を参照してください。
- IAM Access Analyzer を使用してIAMポリシーを検証し、安全で機能的なアクセス許可を確保する – IAM Access Analyzer は、ポリシーがポリシー言語 (JSON) とIAMベストプラクティスに準拠するように、新規および既存のIAMポリシーを検証します。IAM Access Analyzer には、安全で機能的なポリシーの作成に役立つ 100 を超えるポリシーチェックと実用的なレコメンデーションが用意されています。詳細については、IAM「 ユーザーガイド」のIAM「Access Analyzer でポリシーを検証する」を参照してください。
- 多要素認証が必要 (MFA) – でIAMユーザーまたはルートユーザーを必要とするシナリオがある場合は AWS アカウント、 をオンにMFAしてセキュリティを強化します。API オペレーションが呼び出されるMFAタイミングを要求するには、ポリシーにMFA条件を追加します。詳細については、「 ユーザーガイド」の「 によるセキュアAPIアクセスMFA」を参照してください。 IAM

のベストプラクティスの詳細についてはIAM、「 ユーザーガイド」の「 のセキュリティのベストプラクティスIAM」を参照してください。 IAM

Amazon WorkDocs コンソールの使用

Amazon WorkDocs コンソールにアクセスするには、最小限のアクセス許可のセットが必要です。これらのアクセス許可により、 AWS アカウント内の Amazon WorkDocs リソースの詳細を一覧表示および表示できます。最低限必要なアクセス許可よりも制限の厳しいアイデンティティベースのポリシーを作成すると、コンソールはIAMユーザーまたはロールエンティティの意図したとおりに機能しません。

これらのエンティティが Amazon WorkDocs コンソールを使用できるようにするには、次の AWS 管理ポリシーもエンティティにアタッチします。ポリシーのアタッチの詳細については、「 ユーザーガイド」の「ユーザーへのアクセス許可の追加」を参照してください。 IAM

- AmazonWorkDocsFullAccess
- AWSDirectoryServiceFullAccess
- AmazonEC2FullAccess

これらのポリシーは、Amazon WorkDocs リソース、 AWS Directory Service オペレーション、および Amazon が正しく機能するために必要な Amazon WorkDocs EC2オペレーションへのフルアクセスをユーザーに付与します。

AWS CLI または のみを呼び出すユーザーに対して、最小限のコンソールアクセス許可を付与する必要はありません AWS API。代わりに、実行しようとしているAPIオペレーションに一致するアクションのみへのアクセスを許可します。

自分の権限の表示をユーザーに許可する

この例では、IAMユーザーがユーザー ID にアタッチされているインラインポリシーとマネージドポリシーを表示できるようにするポリシーを作成する方法を示します。このポリシーには、コンソールで、または AWS CLI または を使用してプログラムでこのアクションを実行するアクセス許可が含まれています AWS API。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "ViewOwnUserInfo",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "iam:GetUserPolicy",
```

```
                "iam:ListGroupsForUser",
                "iam:ListAttachedUserPolicies",
                "iam:ListUserPolicies",
                "iam:GetUser"
            ],
            "Resource": ["arn:aws:iam::*:user/${aws:username}"]
        },
        {
            "Sid": "NavigateInConsole",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "iam:GetGroupPolicy",
                "iam:GetPolicyVersion",
                "iam:GetPolicy",
                "iam:ListAttachedGroupPolicies",
                "iam:ListGroupPolicies",
                "iam:ListPolicyVersions",
                "iam:ListPolicies",
                "iam:ListUsers"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

Amazon WorkDocs リソースへの読み取り専用アクセスをユーザーに許可する

次の AWS 管理AmazonWorkDocsReadOnlyAccessポリシーは、Amazon WorkDocs リソースへの読み取り専用アクセスをIAMユーザーに許可します。このポリシーは、ユーザーにすべての Amazon WorkDocs `Describe` オペレーションへのアクセスを許可します。Amazon が VPCsと サブネットのリストを取得できるように、2 WorkDocs つの Amazon EC2オペレーションへのアクセスが必要です。 AWS Directory Service ディレクトリに関する情報を取得するには、 AWS Directory Service `DescribeDirectories`オペレーションへのアクセスが必要です。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "workdocs:Describe*",
                "ds:DescribeDirectories",
```

```
                "ec2:DescribeVpcs",
                "ec2:DescribeSubnets"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

Amazon WorkDocs アイデンティティベースのポリシーの例

IAM 管理者は、IAMロールまたはユーザーに Amazon へのアクセスを許可する追加のポリシーを作成できます WorkDocs API。詳細については、「Amazon デベロッパーガイド」の「管理アプリケーションの認証とアクセスコントロール」を参照してください。 WorkDocs

Amazon WorkDocs ID とアクセスのトラブルシューティング

以下の情報は、Amazon と の使用時に発生する可能性のある一般的な問題を診断 WorkDocs して修正するのに役立ちますIAM。

トピック

- Amazon でアクションを実行する権限がありません WorkDocs
- iam を実行する権限がありません。PassRole
- AWS アカウント外のユーザーに Amazon WorkDocs リソースへのアクセスを許可したい

Amazon でアクションを実行する権限がありません WorkDocs

がアクションを実行する権限がないと AWS Management Console 通知した場合は、管理者に連絡してサポートを依頼する必要があります。担当の管理者はお客様のユーザー名とパスワードを発行した人です。

iam を実行する権限がありません。PassRole

`iam:PassRole` アクションを実行する権限がないというエラーが表示された場合は、Amazon にロールを渡すことができるようにポリシーを更新する必要があります WorkDocs。

一部の AWS のサービス では、新しいサービスロールまたはサービスにリンクされたロールを作成する代わりに、そのサービスに既存のロールを渡すことができます。そのためには、サービスにロールを渡す権限が必要です。

次のエラー例は、 という名前のIAMユーザーがコンソールを使用して Amazon `marymajor` でアクションを実行しようとすると発生します WorkDocs。ただし、このアクションをサービスが実行するには、サービスロールから付与された権限が必要です。メアリーには、ロールをサービスに渡す許可がありません。

```
User: arn:aws:iam::123456789012:user/marymajor is not authorized to perform:
 iam:PassRole
```

この場合、Mary のポリシーを更新してメアリーに `iam:PassRole` アクションの実行を許可する必要があります。

サポートが必要な場合は、 AWS 管理者にお問い合わせください。サインイン認証情報を提供した担当者が管理者です。

AWS アカウント外のユーザーに Amazon WorkDocs リソースへのアクセスを許可したい

他のアカウントのユーザーや組織外の人が、リソースにアクセスするために使用できるロールを作成できます。ロールの引き受けを委託するユーザーを指定できます。リソースベースのポリシーまたはアクセスコントロールリスト (ACLs) をサポートするサービスでは、これらのポリシーを使用して、リソースへのアクセスをユーザーに許可できます。

詳細については、以下を参照してください。

- Amazon がこれらの機能 WorkDocs をサポートしているかどうかについては、「」を参照してくださいAmazon と の WorkDocs 連携方法 IAM。
- 所有 AWS アカウント している リソースへのアクセスを提供する方法については、 IAM ユーザーガイドの「所有 AWS アカウント している別の のIAMユーザーへのアクセスを提供する」を参照してください。
- サードパーティー にリソースへのアクセスを提供する方法については AWS アカウント、 IAM ユーザーガイドの「サードパーティー AWS アカウント が所有する へのアクセスを提供する」を参照してください。
- ID フェデレーションを介してアクセスを提供する方法については、 IAM ユーザーガイドの「外部認証されたユーザーへのアクセスを提供する (ID フェデレーション)」を参照してください。
- クロスアカウントアクセスにロールとリソースベースのポリシーを使用する違いについては、IAM「 ユーザーガイド」の「 のクロスアカウントリソースアクセスIAM」を参照してください。

Amazon での口グ記録とモニタリング WorkDocs

Amazon WorkDocs サイト管理者は、サイト全体のアクティビティフィードを表示およびエクスポートできます。を使用して AWS CloudTrail Amazon WorkDocs コンソールからイベントをキャプチャすることもできます。

トピック

- サイト全体のアクティビティフィードのエクスポート
- AWS CloudTrail を使用して Amazon WorkDocs API コールを記録する

サイト全体のアクティビティフィードのエクスポート

管理者は、サイト全体のアクティビティフィードを表示、エクスポートすることができます。この機能を使用するには、まず Amazon WorkDocs Companion をインストールする必要があります。Amazon WorkDocs Companion をインストールするには、「Amazon のアプリケーションと統合 WorkDocs」を参照してください。

サイト全体のアクティビティフィードを表示、エクスポートするには

1. ウェブアプリケーションで、[Activity] (アクティビティ) を選択します。
2. [Filter](フィルター) を選択し、[Site-wide activity] (サイト全体のアクティビティ) スライダーを動かしてフィルターをオンにします。
3. [Activity Type] (アクティビティタイプ) フィルターを選択し、必要に応じて [Date Modified] (変更日) 設定を選択してから、[Apply] (適用) を選択します。
4. フィルタリングされたアクティビティフィードの結果が表示されたら、ファイル、フォルダ、またはユーザー名で検索して結果を絞り込みます。必要に応じてフィルタを追加または削除することも可能です。
5. [Export] (エクスポート) を選択して、アクティビティフィードをデスクトップ上の `.csv` および `.json` ファイルにエクスポートします。システムは、以下のいずれかの場所にファイルをエクスポートします。

   - Windows – PC のダウンロードWorkDocsDownloadsフォルダのフォルダ
   - macOS – `/users/username/WorkDocsDownloads/folder`

   エクスポートされたファイルには、適用したすべてのフィルタが反映されます。

> **Note**
>
> 管理者ではないユーザーは、自分のコンテンツのみのアクティビティフィードを表示およびエクスポートできます。詳細については、「Amazon WorkDocs ユーザーガイド」の「アクティビティフィードの表示」を参照してください。

AWS CloudTrail を使用して Amazon WorkDocs API コールを記録する

を使用すると、Amazon WorkDocs API calls を記録 AWS CloudTrailできます。 CloudTrail は、Amazon WorkDocs コンソールからのAPI呼び出しや Amazon へのコード呼び出しなど、 AWS Amazon のすべての呼び出しをイベント WorkDocs として WorkDocs CloudTrail キャプチャします WorkDocs APIs。

証跡を作成する場合は、Amazon の CloudTrail イベントを含む、Amazon S3 バケットへのイベントの継続的な配信を有効にすることができます WorkDocs。 Amazon S3 証跡を作成しない場合でも、CloudTrail コンソールのイベント履歴 で最新のイベントを表示できます。

によって収集される情報 CloudTrail には、リクエスト、リクエスト元の IP アドレス、リクエストを行ったユーザー、リクエスト日が含まれます。

の詳細については CloudTrail、AWS CloudTrail 「 ユーザーガイド」を参照してください。

の Amazon WorkDocs 情報 CloudTrail

CloudTrail AWS アカウントを作成すると、 はアカウントで有効になります。Amazon でアクティビティが発生すると WorkDocs、そのアクティビティは CloudTrail イベント履歴 の他の AWS サービスイベントとともにイベントに記録されます。 AWS アカウントで最近のイベントを表示、検索、ダウンロードできます。詳細については、「イベント履歴 を含む CloudTrail イベントの表示」を参照してください。

Amazon のイベントなど、 AWS アカウント内のイベントの継続的な記録については WorkDocs、証跡を作成します。証跡により CloudTrail 、 はログファイルを Amazon S3 バケットに配信できます。デフォルトでは、コンソールで追跡を作成するときに、追跡がすべてのリージョンに適用されます。証跡は、 AWS パーティション内のすべてのリージョンからのイベントをログに記録し、指定した Amazon S3 バケットにログファイルを配信します。さらに、 CloudTrail ログで収集されたイベントデータをさらに分析して対処するように、他の AWS サービスを設定できます。詳細については、以下を参照してください。

- 証跡を作成するための概要
- CloudTrail サポートされているサービスと統合
- の Amazon SNS通知の設定 CloudTrail
- 複数のリージョンからの CloudTrail ログファイルの受信と複数のアカウントからの CloudTrail ログファイルの受信

すべての Amazon WorkDocs アクションは によってログに記録 CloudTrail され、Amazon WorkDocs API リファレンス に記載されています。例えば、 `DeactivateUser`および `UpdateDocument`セクションへの呼び出しは`CreateFolder`、 CloudTrail ログファイルにエントリを生成します。

各イベントまたはログエントリには、誰がリクエストを生成したかという情報が含まれます。アイデンティティ情報は、以下を判別するのに役立ちます:

- リクエストがルート認証情報またはIAMユーザー認証情報を使用して行われたかどうか。
- リクエストがロールまたはフェデレーションユーザーのテンポラリなセキュリティ認証情報を使用して行われたかどうか。
- リクエストが別の AWS サービスによって行われたかどうか。

詳細については、「 CloudTrail userIdentity要素」を参照してください。

Amazon WorkDocs ログファイルエントリについて

証跡は、指定した Amazon S3 バケットへのログファイルとしてイベントを配信できるようにする設定です。 CloudTrail ログファイルには 1 つ以上のログエントリが含まれます。イベントは、任意のソースからの単一のリクエストを表し、リクエストされたアクション、アクションの日付と時刻、リクエストパラメータなどに関する情報が含まれます。 CloudTrail ログファイルはパブリックAPIコールの順序付けられたスタックトレースではないため、特定の順序で表示されません。

Amazon は、コントロールプレーンからのエントリとデータプレーンからのエントリの異なるタイプの CloudTrail エントリ WorkDocs を生成します。この 2 つの重要な違いは、コントロールプレーンエントリのユーザー ID が IAM ユーザーであることです。データプレーンエントリのユーザー ID は Amazon WorkDocs ディレクトリユーザーです。

> **Note**
>
> セキュリティを強化するには、可能な限りユーザーではなくフェデレーティッドIAMユーザーを作成します。

パスワード、認証トークン、ファイルコメント、ファイルコンテンツなどの機密情報は、ログエントリには表示されません。これらは CloudTrail ログに HIDDEN_DUE_TO_SECURITY_REASONS として表示されます。これらは CloudTrail ログに HIDDEN_DUE_TO_SECURITY_REASONS として表示されます。

次の例は、Amazon の 2 つの CloudTrail ログエントリを示しています WorkDocs。最初のレコードはコントロールプレーンアクション用、2 番目のレコードはデータプレーンアクション用です。


```
{
  Records : [
    {
      "eventVersion" : "1.01",
      "userIdentity" :
      {
        "type" : "IAMUser",
        "principalId" : "user_id",
        "arn" : "user_arn",
        "accountId" : "account_id",
        "accessKeyId" : "access_key_id",
        "userName" : "user_name"
      },
      "eventTime" : "event_time",
      "eventSource" : "workdocs.amazonaws.com",
      "eventName" : "RemoveUserFromGroup",
      "awsRegion" : "region",
      "sourceIPAddress" : "ip_address",
      "userAgent" : "user_agent",
      "requestParameters" :
      {
        "directoryId" : "directory_id",
        "userSid" : "user_sid",
        "group" : "group"
      },
      "responseElements" : null,
      "requestID" : "request_id",
      "eventID" : "event_id"
```

```
    },
    {
      "eventVersion" : "1.01",
      "userIdentity" :
      {
        "type" : "Unknown",
        "principalId" : "user_id",
        "accountId" : "account_id",
        "userName" : "user_name"
      },
      "eventTime" : "event_time",
      "eventSource" : "workdocs.amazonaws.com",
      "awsRegion" : "region",
      "sourceIPAddress" : "ip_address",
      "userAgent" : "user_agent",
      "requestParameters" :
      {
        "AuthenticationToken" : "**-redacted-**"
      },
      "responseElements" : null,
      "requestID" : "request_id",
      "eventID" : "event_id"
    }
  ]
}
```

Amazon のコンプライアンス検証 WorkDocs

AWS のサービス が特定のコンプライアンスプログラムの範囲内にあるかどうかを確認するには、AWS のサービス「コンプライアンスプログラムによるスコープ」の」の「」を参照し、関心のあるコンプライアンスプログラムを選択します。一般的な情報については、AWS「コンプライアンスプログラム」を参照してください。

を使用して、サードパーティーの監査レポートをダウンロードできます AWS Artifact。詳細については、「」の AWS Artifact」を参照してください。

を使用する際のお客様のコンプライアンス責任 AWS のサービス は、データの機密性、会社のコンプライアンス目的、および適用される法律と規制によって決まります。 は、コンプライアンスに役立つ以下のリソース AWS を提供します。

- セキュリティとコンプライアンスのクイックスタートガイド – これらのデプロイガイドでは、アーキテクチャ上の考慮事項について説明し、セキュリティとコンプライアンスに重点を置いたベースライン環境 AWS を にデプロイする手順について説明します。
- Amazon Web Services HIPAA のセキュリティとコンプライアンスのためのアーキテクチャ – このホワイトペーパーでは、企業が AWS を使用して HIPAAの対象となるアプリケーションを作成する方法について説明します。

> **Note**
>
> すべての AWS のサービス がHIPAA対象となるわけではありません。詳細については、HIPAA「対象サービスリファレンス」を参照してください。

- AWS コンプライアンスリソース – このワークブックとガイドのコレクションは、お客様の業界とロケーションに適用される場合があります。
- AWS カスタマーコンプライアンスガイド – コンプライアンスの観点から責任共有モデルを理解します。このガイドでは、ガイダンスを保護し AWS のサービス 、複数のフレームワーク (米国国立標準技術研究所 (NIST) 、Payment Card Industry Security Standards Council (PCI) 、国際標準化機構 (ISO) など) のセキュリティコントロールにマッピングするためのベストプラクティスをまとめています。
- AWS Config デベロッパーガイドの ルールによるリソースの評価 – この AWS Config サービスは、リソース設定が内部プラクティス、業界ガイドライン、および規制にどの程度準拠しているかを評価します。
- AWS Security Hub – これにより AWS のサービス 、 内のセキュリティ状態を包括的に確認できます AWS。Security Hub では、セキュリティコントロールを使用して AWS リソースを評価し、セキュリティ業界標準とベストプラクティスに対するコンプライアンスをチェックします。サポートされているサービスとコントロールのリストについては、Security Hub のコントロールリファレンスを参照してください。
- Amazon GuardDuty – これにより AWS アカウント、疑わしいアクティビティや悪意のあるアクティビティがないか環境を監視することで、、、ワークロード、コンテナ、データに対する潜在的な脅威 AWS のサービス を検出できます。 GuardDuty は、特定のコンプライアンスフレームワークで義務付けられている侵入検出要件を満たすことでDSS、 PCI などのさまざまなコンプライアンス要件に対応するのに役立ちます。
- AWS Audit Manager – これにより AWS のサービス 、 AWS 使用状況を継続的に監査し、リスクと規制や業界標準へのコンプライアンスの管理を簡素化できます。

Amazon のレジリエンス WorkDocs

AWS グローバルインフラストラクチャは、 AWS リージョンとアベイラビリティーゾーンを中心に構築されています。 AWS リージョンは、低レイテンシー、高スループット、および冗長性の高いネットワークに接続された、物理的に分離および分離された複数のアベイラビリティーゾーンを提供します。アベイラビリティーゾーンでは、アベイラビリティーゾーン間で中断せずに、自動的にフェイルオーバーするアプリケーションとデータベースを設計および運用することができます。アベイラビリティーゾーンは、従来の単一または複数のデータセンターインフラストラクチャよりも可用性、耐障害性、およびスケーラビリティが優れています。

AWS リージョンとアベイラビリティーゾーンの詳細については、AWS 「グローバルインフラストラクチャ」を参照してください。

Amazon のインフラストラクチャセキュリティ WorkDocs

マネージドサービスである Amazon WorkDocs は、 AWS グローバルネットワークセキュリティ手順によって保護されています。詳細については、IAM「 ユーザーガイド」のAWS「Identity and Access Management」の「インフラストラクチャセキュリティ」および AWS 「アーキテクチャセンターのセキュリティ、アイデンティティ、コンプライアンスのベストプラクティス」を参照してください。

AWS 公開されたAPI呼び出しを使用して、ネットワーク WorkDocs 経由で Amazon にアクセスします。クライアントは Transport Layer Security (TLS) 1.2 をサポートする必要があります。1.3 TLS を使用することをお勧めします。クライアントは、Ephemeral Diffie-Hellman や Elliptic Curve Ephemeral Diffie-Hellman などの完全転送秘密を備えた暗号スイートもサポートする必要があります。これらのモードは、Java 7 以降など、ほとんどの最新システムでサポートされています。

さらに、リクエストは、アクセスキー ID とプリンIAMシパルに関連付けられているシークレットアクセスキーを使用して署名する必要があります。または、AWS Security Token Service (AWS STS) を使用して、一時セキュリティ認証情報を生成し、リクエストに署名することもできます。

Amazon WorkDocs の使用を開始する

Amazon WorkDocs は、ディレクトリを使用してユーザーとそのドキュメントの組織情報を保存および管理します。次に、サイトをプロビジョニングする際には、ディレクトリをサイトにアタッチします。これを行うと、自動アクティベーションと呼ばれる Amazon WorkDocs の機能により、ディレクトリ内のユーザーが管理対象ユーザーとしてサイトに追加されます。つまり、サイトへログインするために個別の認証情報を必要とせず、ファイルを共有および共同で作業することができます。追加購入しない限り、各ユーザーには 1 TB のストレージがあります。

ユーザーの追加やアクティベーションを手動で行う必要がなくなったとはいえ、まだ可能です。また必要に応じて、いつでもユーザーのロールおよび権限を変更することもできます。それを行うことについての詳細は、本ガイドで後述する「Amazon WorkDocs ユーザーを招待して管理します」を参照してください。

ディレクトリを作成する必要がある場合は、以下のことができます。

- Simple AD ディレクトリを作成します。
- AD Connector ディレクトリを作成して、オンプレミス ディレクトリに接続します。
- Amazon WorkDocs が既存の AWS ディレクトリと連携できるようにします。
- Amazon WorkDocs でディレクトリを作成してもらいます。

AD ディレクトリと AWS Managed Microsoft AD ディレクトリの間に信頼関係を作成することもできます。

> **Note**
>
> PCI、 FedRAMP または DoD などのコンプライアンス プログラムに属している場合は、コンプライアンス要件を満たすために AWS Managed Microsoft AD ディレクトリを設定する必要があります。このセクションのステップでは、既存の Microsoft AD Directory の使用方法について説明します。Microsoft AD ディレクトリの作成の詳細については、AWSディレクトリサービス管理ガイドの「AWS Managed Microsoft AD」を参照してください。

目次

- 多要素認証の有効化
- ユーザーを管理者に昇格させる

Amazon WorkDocs サイトを作成する

次のセクションの手順では、新しい Amazon WorkDocs サイトをセットアップする方法を説明します。

タスク

- 開始する前に
- Amazon WorkDocs サイトの作成

開始する前に

Amazon WorkDocs サイトを作成するには、次のアイテムを持つ必要があります。

- Amazon WorkDocs サイトを作成および管理するための AWS アカウント。ただし、ユーザーは Amazon WorkDocs に接続して使用するための AWS アカウントは必要ありません。詳細については、「Amazon の前提条件 WorkDocs」を参照してください。
- Simple AD を使用する予定がある場合は、「AWS Directory ServiceCC 管理ガイド」の「Simple AD の前提条件」に記載されている前提条件を満たす必要があります。
- PCI、FedRAMP または DoD などのコンプライアンスプログラムに属している場合、AWS Managed Microsoft ADディレクトリ。このセクションのステップでは、既存の Microsoft AD Directory の使用方法について説明します。Microsoft AD ディレクトリの作成の詳細については、AWS Directory Service Administration Guideの「AWS Managed Microsoft AD」を参照してください。
- 管理者のプロフィール情報 (姓名、電子メールアドレスなど)

Amazon WorkDocs サイトの作成

このステップに従って、Amazon WorkDocs サイトをすばやく作成できます。

Amazon WorkDocs サイトを作成するには

1. Amazon WorkDocs コンソール (https://console.aws.amazon.com/zocalo/) を開きます。
2. コンソールのホームページの [WorkDocs サイトを作成] で、[今すぐ開始] を選択します。

-もしくは-

ナビゲーションペインで [マイサイト] を選択し、[WorkDocs サイトを管理] ページで [WorkDocs サイトを作成] を選択します。

次に実行される処理は、ディレクトリがあるかどうかによって異なります。

- ディレクトリがある場合は、「ディレクトリを選択」ページが表示され、既存のディレクトリを選択するか、ディレクトリを作成できます。
- ディレクトリがない場合は、「ディレクトリタイプを設定」ページが表示され、Simple AD または AD Connector ディレクトリを作成できます。

このステップでは、両方のタスクを実行する方法を説明します。

既存のディレクトリを使用するには

1. 使用可能なディレクトリリストを開き、使用するディレクトリを選択します。
2. [Enable directory] (ディレクトリディレクトリの有効化) を選択します。

ディレクトリを作成するには

1. 上記ステップ 1 と 2 を繰り返します。

   この時点で、Simple AD を使用するか AD Connector を作成するかによって、実行する内容が異なります。

   Simple ADを使用するには

   a. [Simple AD] を選択して、次に [次へ] を選択します。

      「Simple AD サイトを作成」ページが表示されます。

   b. 「アクセスポイント」の「サイト URL」ボックスに、サイトの URL を入力します。

   c. 「WorkDocs 管理者を設定」で、管理者のメールアドレス、名、姓を入力します。

   d. 必要に応じて、[ディレクトリの詳細] と [VPC 設定] のオプションを入力します。

   e. [Simple ADを作成] を選択します。

AD Connector ディレクトリを作成するには

a. [AD Connector]、 [次へ]の順に選択します。

[AD Connector のサイトを作成] ページが表示されます。

b. [ディレクトリの詳細] のすべてのフィールドに入力します。

c. [アクセスポイント] の [サイト URL] ボックスに、サイトの URL を入力します。

d. 必要に応じて、VPC 設定の下のオプションフィールドを入力します。

e. [AD Connector のサイトを作成] を選択します。

Amazon WorkDocs は、以下のことを行います。

- 上記のステップ 4 で [自分の代わりに VPC をセットアップ] を選択した場合、Amazon WorkDocs によって自動的に VPC が作成されます。VPC 内のディレクトリには、ユーザーと Amazon WorkDocs サイトの情報が保存されます。
- Simple AD を使用した場合、Amazon WorkDocs はディレクトリユーザーを作成し、そのユーザーを Amazon WorkDocs 管理者として設定します。AD Connector ディレクトリを作成した場合、Amazon WorkDocs は WorkDocs 管理者として指定した既存のディレクトリユーザーを設定します。
- 既存のディレクトリを使用した場合、Amazon WorkDocs では Amazon WorkDocs 管理者のユーザー名を入力するように求められます。ユーザーは、ディレクトリのメンバーでなければなりません。

> **Note**
>
> Amazon WorkDocs は、新しいサイトについてユーザーに通知しません。URL をユーザーに伝え、サイトを使用するために別のログインは必要がないことを知らせる必要があります。

シングルサインオンの有効化

AWS Directory Service は、Amazon WorkDocs が登録されていのと同じディレクトリに参加しているコンピュータから、別途認証情報を入力することなく Amazon WorkDocs にアクセスすることをユーザーに許可します。Amazon WorkDocs 管理者は、AWS Directory Service コンソールを使用して、シングルサインオンを有効にすることができます。詳細については、「AWS Directory Service

Administration Guide」(管理ガイド) の「Single sign-on」(シングルサインオン) を参照してください。

Amazon WorkDocs 管理者がシングルサインオンを有効にした後、Amazon WorkDocs サイトのユーザーは、シングルサインオンを許可するためにウェブブラウザの設定を変更する必要がある場合もあります。詳細については、「AWS Directory Service 管理ガイド」の「Single sign-on for IE and Chrome」(IE および Chrome のシングルサインオン) および「Single sign-on for Firefox」(Firefox のシングルサインオン) を参照してください。

多要素認証の有効化

AWS ディレクトリサービスコンソール https://console.aws.amazon.com/directoryservicev2/ を使用して、AD Connector ディレクトリの多要素認証を有効にします。MFA を有効にするには、MFA ソリューションとして Remote Authentication Dial-In User Service (RADIUS) サーバーを使用するか、オンプレミスインフラストラクチャに RADIUS サーバー用の MFA プラグインを実装しておく必要があります。MFA ソリューションでは、ワンタイムパスコード (OTP) を実装する必要があります。ユーザーは、ハードウェアデバイスから、または携帯電話などのデバイスで実行されるソフトウェアから、このコードを取得します、

RADIUS は、業界標準のクライアント/サーバープロトコルであり、ユーザーをネットワークサービスに接続するための認証、許可、アカウント管理の機能を提供します。AWS Managed Microsoft AD には、MFA ソリューションを実装した RADIUS サーバーに接続する RADIUS クライアントが付属しています。この RADIUS サーバーが、ユーザーネームと OTP コードを検証します。RADIUS サーバーがユーザーの検証に成功すると、 AWS Managed Microsoft AD は AD に対して、そのユーザーを認証します。AD に対する認証に成功すると、ユーザーは AWS アプリケーションにアクセスできます。Managed Microsoft AD RADIUS クライアントと RADIUS サーバーとの間の通信では、ポート 1812 を介した通信を有効にするための AWS セキュリティグループを設定する必要があります。

詳細については、AWS Directory Service 管理ガイドの「AWS Managed Microsoft AD の多要素認証を有効にする」を参照してください。

> **Note**
>
> Simple AD ディレクトリに対して多要素認証は使用できません。

ユーザーを管理者に昇格させる

Amazon WorkDocs コンソールを使用して、ユーザーを管理者に昇格させます。以下の手順に従ってください。

ユーザーを管理者に昇格するには

1. Amazon WorkDocs コンソール (https://console.aws.amazon.com/zocalo/) を開きます。
2. ナビゲーションペインで、[マイサイト] を選択します。

   WorkDocs サイトを管理ページが表示されます。
3. 目的のサイトの横にあるボタンを選択し、[アクション] を選択し、[管理者を設定] を選択します。

   WorkDocs 管理者を設定 ダイアログボックスが表示されます。
4. [ユーザー名] ボックスに、昇格させたいユーザーの名前を入力し、「管理者を設定」を選択します。

Amazon WorkDocs サイト管理者コントロールパネルを使用して、管理者を降格することもできます。詳細については、「ユーザーの編集」を参照してください。

AWSコンソールからの Amazon WorkDocs の管理

Amazon WorkDocs サイトを管理するには、以下のツールを使用します。

- AWS コンソール (https://console.aws.amazon.com/zocalo/) を開きます。
- すべての Amazon WorkDocs サイトの管理者が利用できるサイト管理者コントロールパネル。

これらのツールにはそれぞれ異なるアクションセットがあり、このセクションのトピックではAWS コンソールによって提供されるアクションについて説明します。サイト管理コントロールパネルについては、「サイト管理者コントロールパネル WorkDocs からの Amazon の管理」を参照してください。

サイト管理者の設定

管理者の場合は、サイトコントロールパネルとそこに表示されるアクションへのアクセスをユーザーに許可できます。

管理者を設定するには

1. Amazon WorkDocs コンソール (https://console.aws.amazon.com/zocalo/) を開きます。
2. ナビゲーションペインで、[マイサイト] を選択します。

   WorkDocs サイトの管理ページが表示され、サイトのリストが表示されます。
3. 管理者を設定するサイトの横にあるボタンを選択します。
4. [アクション]リストを開き、一覧から [管理者を設定] を選択します。

   WorkDocs 管理者を設定ダイアログボックスが表示されます。
5. 「ユーザー名」ボックスに新しい管理者の名前を入力し、「管理者を設定」を選択します。

招待メールの再送信

招待メールはいつでも再送信できます。

招待メールを再送信するには

1. Amazon WorkDocs コンソール (https://console.aws.amazon.com/zocalo/) を開きます。

2. ナビゲーションペインで、[マイサイト] を選択します。

   WorkDocs サイトの管理ページが表示され、サイトのリストが表示されます。
3. メールを再送信するサイトの横にあるボタンを選択します。
4. 「アクション」リストを開き、「招待メールを再送信」を選択します。

   ページの上部に緑色のバナーで成功メッセージが表示されます。

多要素認証を管理する

Amazon WorkDocs サイトを作成した後に、多要素認証を有効にすることができます。認証の詳細については、「多要素認証の有効化」を参照してください。

サイト間 URL の設定

> **Note**
>
> Amazon WorkDocs の使用を開始するでサイト作成プロセスを実行した場合は、サイト URL を入力したことになります。その結果、URL は 1 回しか設定できないため、Amazon WorkDocs では [サイト URLを設定] コマンドを使用できなくなります。Amazon WorkSpaces をデプロイして Amazon WorkDocs と統合する場合にのみ、以下の手順に従います。Amazon WorkSpaces の統合プロセスでは、サイト URL の代わりにシリアル番号を入力する必要があるため、統合を完了したら URL を入力する必要があります。Amazon WorkSpaces と Amazon WorkDocs の統合の詳細については、Amazon WorkSpaces ユーザーガイドの「WorkDocs との統合」を参照してください。

サイト URL を設定するには

1. Amazon WorkDocs コンソール (https://console.aws.amazon.com/zocalo/) を開きます。
2. ナビゲーションペインで、[マイサイト] を選択します。

   WorkDocs サイトの管理ページが表示され、サイトのリストが表示されます。
3. Amazon WorkSpaces と統合したサイトを選択します。URL には、https://{directory_id}.awsapps.com などの Amazon WorkSpaces インスタンスのディレクトリ ID が含まれています。

4. その URL の横にあるボタンを選択し、アクションリストを開いて [サイト URL を設定] を選択します。

   「サイト URL を設定」ダイアログボックスが表示されます。
5. 「サイト URL」ボックスに、サイトの URL を入力し、「サイト URL を設定」を選択します。
6. [WorkDocs サイトの管理] ページで、[更新] を選択して新しい URL を表示します。

通知の管理

> **Note**
>
> セキュリティを強化するために、可能な限り IAM ユーザーではなくフェデレーティッドユーザーを作成してください。

通知により、IAM ユーザーまたはロールは CreateNotificationSubscription API を呼び出すことができます。これを使用して、WorkDocs が送信する SNS メッセージを処理するための独自のエンドポイントを設定できます。通知の詳細については、Amazon WorkDocs デベロッパーガイドの「IAM ユーザーまたはロールの通知の設定」を参照してください。

通知の作成と削除が可能で、以下の手順でその方法を説明します。

通知を作成するには

1. Amazon WorkDocs コンソール (https://console.aws.amazon.com/zocalo/) を開きます。
2. ナビゲーションペインで、[マイサイト] を選択します。

   WorkDocs サイトの管理ページが表示され、サイトのリストが表示されます。
3. 目的のサイトの横にあるボタンを選択します。
4. 「アクション」リストを開き、「通知を管理」を選択します。

   WorkDocs 管理者を設定ダイアログボックスが表示されます。
5. 「ユーザー名」ボックスに新しい管理者の名前を入力し、「管理者を設定」を選択します。

通知を削除するには

1. Amazon WorkDocs コンソール (https://console.aws.amazon.com/zocalo/) を開きます。

2. ナビゲーションペインで、[マイサイト] を選択します。

   WorkDocs サイトの管理ページが表示され、サイトのリストが表示されます。
3. 管理者を設定するサイトの横にあるボタンを選択します。
4. [アクション] リストを開き、一覧から [管理者を設定] を選択します。

   WorkDocs 管理者の設定ダイアログボックスが表示されます。
5. 「ユーザー名」ボックスに新しい管理者の名前を入力し、「管理者を設定」を選択します。

サイトの削除

Amazon WorkDocs コンソールを使用して、サイトを削除します。

> **Warning**
>
> サイトを削除するとすべてのファイルが失われます。サイトを削除するのは、サイトのこの情報がもう必要ないと確信が持てる場合のみにしてください。

サイトを削除するには

1. Amazon WorkDocs コンソール (https://console.aws.amazon.com/zocalo/) を開きます。
2. ナビゲーションペインで、[マイサイト] を選択します。

   [WorkDocs サイトの管理] ページが表示されます。
3. 削除するルールの横にある [削除] ボタンを選択します。

   [サイトURL]を[削除] ダイアログボックスが表示されます。
4. オプションで、[ユーザーディレクトリも削除する] を選択します。

> **Important**
>
> Amazon WorkDocs の独自のディレクトリを提供しない場合、ディレクトリはこちらで作成します。Amazon WorkDocs サイトを削除すると、そのディレクトリを削除するか、別の AWS アプリケーションに使用しない限り、作成したディレクトリに対して料金が発生します。料金情報については、「AWS Directory Service の料金」を参照してください。

5. 「サイトのURL」ボックスに、サイトのURL を入力し、[削除]を選択します。

   サイトはすぐに削除され、使用できなくなります。

サイト管理者コントロールパネル WorkDocs からの Amazon の管理

Amazon WorkDocs サイトを管理するには、次のツールを使用します。

- サイト管理者コントロールパネル。すべての Amazon WorkDocs サイトの管理者が利用でき、以下のトピックで説明します。
- AWS コンソールは https://console.aws.amazon.com/zocalo/ にあります。

これらのツールはそれぞれ異なるアクションセットを提供します。このセクションのトピックでは、サイト管理コントロールパネルが提供するアクションについて説明します。コンソールで利用できるタスクについては、「AWSコンソールからの Amazon WorkDocs の管理」を参照してください。

優先言語設定

E メール通知の言語を指定できます。

言語の設定を変更するには

1. [マイアカウント] で、[管理コントロールパネルを開く] を選択します。
2. [希望する言語の設定] で、希望する言語を選択します。

Hancom オンライン編集 と Office Online

[Admin control panel] (管理コントロールパネル) から、[Hancom Online Editing] (ハンコムオンライン編集) および [Office Online] (Office オンライン) の設定を有効または無効にします。詳細については、「共同編集の有効化」を参照してください。

[ストレージ]

新しいユーザーが受信するストレージの容量を指定します。

ストレージの設定を変更するには

1. [マイアカウント] で、[管理コントロールパネルを開く] を選択します。

2. [Storage (ストレージ)] で、[Change (変更)] を選択します。
3. [Storage Limit (ストレージの制限)] ダイアログボックスで、新しいユーザーに無制限または制限されたストレージのどちらかを付与するように選択します。
4. [Save Changes] (変更を保存) を選択します。

ストレージ設定の変更は、設定が変更された後に追加されたユーザーにのみ影響します。既存のユーザーに割り当てられたストレージの量は変更されません。既存のユーザーのストレージ制限を変更するには、「ユーザーの編集」をご参照ください。

IP 許可リスト

Amazon WorkDocs サイト管理者は、IP 許可リスト設定を追加して、サイトへのアクセスを許可された IP アドレスの範囲に制限できます。サイトごとに最大 500 個の IP 許可リスト設定を追加できます。

> **Note**
>
> 現在、[IP Allow List] (IP 許可リスト) は、IPv4 アドレスにしか使用できません。IP アドレス拒否リストは現在サポートされていません。

[IP Allow List] (IP 許可リスト) に IP 範囲を追加するには

1. [マイアカウント] で、[管理コントロールパネルを開く] を選択します。
2. [IP Allow List] (IP 許可リスト) で、[Change] (変更) を選択します。
3. [CIDR 値の入力] に、IP アドレス範囲のクラスレスドメイン間ルーティング (CIDR) ブロックを入力し、[追加] を選択します。
   - 1 つの IP アドレスからのアクセスを許可するには、CIDR プレフィックスとして /32 を指定します。
4. [Save Changes] (変更を保存) を選択します。
5. [IP Allow List] (IP 許可リスト) の IP アドレスからサイトに接続するユーザーは、アクセスが許可されます。許可されていない IP アドレスからサイトに接続しようとするユーザーには、unauthorized レスポンスが返されます。

> **Warning**
>
> 現在の IP アドレスを使用してサイトにアクセスすることをブロックする CIDR 値を入力した場合は、警告メッセージが表示されます。現在の CIDR 値で続行する場合は、現在の IP アドレスを使用したサイトへのアクセスがブロックされます。このアクションを取り消すには、AWS Support にお問い合わせください。

セキュリティ — シンプルな ActiveDirectoryサイト

このトピックでは、シンプルな ActiveDirectoryサイトのさまざまなセキュリティ設定について説明します。 ActiveDirectory コネクタを使用するサイトを管理する場合は、次のセクションを参照してください。

セキュリティ設定を使用するには

1. WorkDocs クライアントの右上隅にあるプロファイルアイコンを選択します。

2. [管理] で、[管理コントロールパネルを開く] を選択します。
3. [セキュリティ] まで下にスクロールし、 [変更] を選択します。

   [ポリシーの設定] ダイアログボックスが表示されます。次の表に、シンプルな ActiveDirectory サイトのセキュリティ設定を示します。

設定	説明
「共有可能なリンクの設定を選択する」で、次のいずれかを選択します。	
サイト全体または共有可能なパブリックリンクを許可しない	すべてのユーザーのリンク共有を無効にします。
ユーザーにサイト全体の共有可能なリンクの作成を許可するが、共有可能なパブリックリンクの作成を許可しない	リンク共有をサイトメンバーのみに制限します。マネージドユーザーはこのタイプのリンクを作成できます。

設定	説明
ユーザーはサイト全体で共有可能なリンクを作成できるが、共有可能なパブリックリンクを作成できるのはパワーユーザーのみ	マネージドユーザーはサイト全体のリンクを作成できますが、パブリックリンクを作成できるのはパワーユーザーだけです。パブリックリンクを使用すると、インターネット上の任意のユーザーへのアクセス権が付与されます。
すべてのマネージドユーザーは、サイト全体および共有可能なパブリックリンクを作成できる	マネージドユーザーはパブリック リンクを作成できます。

[自動アクティベーション] で、チェックボックスをオンまたはオフにします。

ディレクトリ内のすべてのユーザーが WorkDocs サイトに初めてログインしたときに自動的にアクティブ化されるようにします。	ユーザーがサイトに初めてログインしたときに、自動的にアクティベーションを行います。

WorkDocs サイトへの新規ユーザーの招待を許可するユーザー で、次のいずれかを選択します。

[新しいユーザーを招待できるのは管理者のみ]	[新しいユーザーを招待できるのは管理者のみ]
ユーザーは、ファイルやフォルダを共有することで、どこからでも新しいユーザーを招待できる	ファイルやフォルダをそのユーザーと共有することで、ユーザーが新しいユーザーを招待できるようにします。
ユーザーは、ファイルまたはフォルダーを共有することで、いくつかの特定のドメインから新しいユーザーを招待できる。	ユーザーは、ファイルまたはフォルダを共有することで、指定のドメインから新しい人物を招待することができます。

「新しいユーザーのロールを設定」で、チェックボックスをオンまたはオフにします。

[ディレクトリからの新しいユーザーはマネージドユーザーになります (デフォルトではゲストユーザー]	ディレクトリの新規ユーザーを管理対象ユーザーに自動的に変換します。

4. 完了したら、[変更を保存] を選択します。

セキュリティ — ActiveDirectory コネクターサイト

このトピックでは、 ActiveDirectory コネクタサイトのさまざまなセキュリティ設定について説明します。Simple を使用するサイトを管理する場合は ActiveDirectory、前のセクションを参照してください。

セキュリティ設定を使用するには

1. WorkDocs クライアントの右上隅にあるプロファイルアイコンを選択します。

2. [管理] で、[管理コントロールパネルを開く] を選択します。
3. [セキュリティ] まで下にスクロールし、 [変更] を選択します。

   [ポリシーの設定] ダイアログボックスが表示されます。次の表に、コネクタサイトのセキュリティ設定 ActiveDirectoryを一覧表示して説明します。

設定	説明
「共有可能なリンクの設定を選択する」で、次のいずれかを選択します。	
サイト全体または共有可能なパブリックリンクを許可しない	選択すると、すべてのユーザーのリンク共有が無効になります。
サイト全体で共有可能なリンクの作成をユーザーに許可するが、共有可能なリンクの作成は許可しない	リンク共有をサイトメンバーのみに制限します。マネージドユーザーはこのタイプのリンクを作成できます。
ユーザーはサイト全体で共有可能なリンクを作成できるが、共有可能なパブリックリンクを作成できるのはパワーユーザーのみ	マネージドユーザーはサイト全体のリンクを作成できますが、パブリックリンクを作成できるのはパワーユーザーだけです。パブリックリンクを使用すると、インターネット上の任意のユーザーへのアクセス権が付与されます。

設定	説明
すべてのマネージドユーザーは、サイト全体および共有可能なパブリックリンクを作成できる	マネージドユーザーはパブリック リンクを作成できます。

[自動アクティベーション] で、チェックボックスをオンまたはオフにします。

ディレクトリ内のすべてのユーザーが WorkDocs サイトに初めてログインしたときに自動的にアクティブ化されるようにします。	ユーザーがサイトに初めてログインしたときに、自動的にアクティベーションを行います。

WorkDocs サイト内のディレクトリユーザーのアクティブ化を許可するユーザー で、次のいずれかを選択します。

管理者のみがディレクトリから新しいユーザーをアクティベートする。	管理者のみが新しいディレクトリユーザーをアクティブ化できます。
[ユーザーは、ファイルまたはフォルダーを共有することで、ディレクトリから新しいユーザーを有効化できる]	ユーザーは、ファイルまたはフォルダをディレクトリユーザーと共有することで、ディレクトリユーザーをアクティブ化できます。
ユーザーは、ファイルやフォルダを共有することで、複数の特定ドメインから新しいユーザーを招待できる	ユーザーは特定ドメインのユーザーのファイルまたはフォルダーのみを共有できます。このオプションを選択した場合は、ドメインを入力する必要があります。

WorkDocs サイトへの新規ユーザーの招待を許可するユーザー で、次のいずれかを選択します。

[外部ユーザーとの共有] **Note** 以下のオプションは、この設定を選択した後にのみ表示されます。	Enables administrators and users to invite new external users to your Amazon WorkDocs site.

設定	説明
管理者のみが新しい外部ユーザーを招待できる	管理者のみが新しい外部ユーザーを招待できます。
すべてのマネージドユーザーが新しい外部ユーザーを招待できる	マネージドユーザーが外部ユーザーを招待できるようにします。
パワーユーザーのみが新しい外部ユーザーを招待できる	パワー ユーザーのみが新しい外部ユーザーを招待できるようにします。

「新しいユーザーのロールを設定」で、1 つまたは両方のオプションを選択します。

[ディレクトリからの新しいユーザーは管理対象ユーザーになる (デフォルトではゲストユーザーです)]	ディレクトリの新しいユーザーを管理対象ユーザーに自動的に変換します。
[新しい外部ユーザーがマネージドユーザーになる (デフォルトではゲストユーザーです)]	新しい外部ユーザーをマネージドユーザーに自動的に変換します。

4. 完了したら、[変更を保存] を選択します。

復旧箱の保持期間

ユーザーがファイルを削除すると、Amazon はそのファイルをユーザーのごみ箱に 30 日間 WorkDocs 保存します。その後、Amazon はファイルを 60 日間一時的な復旧箱 WorkDocs に移動し、完全に削除します。一時復旧箱を見ることができるのは管理者のみです。サイト全体のデータ保持ポリシーを変更することで、サイト管理者は復旧箱の保持期間を最短 0 日、最長 365 日に変更できます。

復旧箱の保持期間を変更するには

1. [マイアカウント] で、[管理コントロールパネルを開く] を選択します。
2. [復旧箱の保持期間] の横にある[変更] を選択します。
3. ファイルを復旧箱に保持する日数を入力し、[保存] を選択します。

> **Note**
>
> デフォルトの保持期間は 60 日間です。0 ~ 365 日の期間を使用できます。

管理者は、Amazon がユーザーファイルを完全に WorkDocs 削除する前に、リカバリ用ごみ箱からユーザーファイルを復元できます。

ユーザーのファイルを復元するには

1. [マイアカウント] で、[管理コントロールパネルを開く] を選択します。
2. [ユーザーの管理] で、ユーザーのフォルダアイコンを選択します。
3. [復旧箱] で、復元するファイルを選択し、[復旧] アイコンをクリックします。
4. [ファイルの復元] で、ファイルを復元する場所を選択し、[復旧] を選択します。

ユーザー設定の管理

ユーザーロールの変更、ユーザーの招待、有効化、無効化を含むユーザーの設定を管理できます。詳細については、「Amazon WorkDocs ユーザーを招待して管理します」を参照してください。

Amazon WorkDocs Drive を複数のコンピュータ展開する

ドメインに参加しているマシンフリートの場合は、グループポリシーオブジェクト (GPO) または System Center Configuration Manager (SCCM) を使用して Amazon WorkDocs Drive クライアントをインストールできます。 https://amazonworkdocs.com/en/clients からクライアントをダウンロードできます。

移動するときは、Amazon WorkDocs Drive で、すべての AWS IP アドレスのポート 443 に HTTPS アクセスが必要であることを忘れないでください。また、ターゲットシステムが Amazon WorkDocs Drive のインストール要件を満たしていることを確認する必要もあります。詳細については、「Amazon WorkDocs ユーザーガイド」の「Installing Amazon WorkDocs Drive」(Amazon WorkDocs Drive のインストール) をご参照ください。

> **Note**
>
> GPO または SCCM を使用する場合のベストプラクティスとして、ユーザーがログインした後に Amazon WorkDocs Drive クライアントをインストールします。

Amazon WorkDocs Drive の MSI インストーラーは以下のオプションインストールパラメータをサポートしています。

- **`SITEID`** - 登録時にユーザーの Amazon WorkDocs サイトの情報を自動入力します。例えば、`SITEID=` *`####`*。
- **`DefaultDriveLetter`** - Amazon WorkDocs Drive のマウントに使用するドライブ名を自動入力します。例えば、`DefaultDriveLetter=` *`W`*。ユーザーごとに異なるドライブ名が必要であることを覚えておいてください。また、ユーザーは Amazon WorkDocs Drive を初めて起動した後、ドライブ名は変更できますが、ドライブ名は変更することができません。

次の例では、ユーザーインターフェイスや再起動なしで Amazon WorkDocs Drive をデプロイしています。MSI ファイルのデフォルト名を使用していることにご注意ください。

```
msiexec /i "AWSWorkDocsDriveClient.msi" SITEID=your_workdocs_site_ID
DefaultDriveLetter=your_drive_letter  REBOOT=REALLYSUPPRESS /norestart /qn
```

Amazon WorkDocs ユーザーを招待して管理します

デフォルトでは、サイトの作成中にディレクトリをアタッチする際に、Amazon WorkDocs の自動アクティベーション機能によって、そのディレクトリ内のすべてのユーザーが [管理ユーザー] として新しいサイトに追加されます。

WorkDocs では、マネージドユーザーは個別の認証情報を使用してログインする必要はなく、ファイルの共有や共同作業ができ、自動的に 1 TB のストレージが備わります。ただし、ディレクトリ内に一部のユーザーのみを追加したい場合は、自動アクティベーションをオフにできます。次のセクションのステップで、その方法を説明します。

さらにユーザーの招待、有効化、無効化、およびユーザーのロールと設定の変更を行うことが可能です。ユーザーをディレクトリ管理者に昇格することもできます。ユーザーの昇格についての情報は、「ユーザーを管理者に昇格させる」を参照してください。

これらのタスクは、Amazon WorkDocs ウェブクライアントの管理コントロールパネルで行います。以下のセクションのステップで方法を説明します。ただし、Amazon WorkDocs を初めて使用する場合は、管理タスクに取り掛かる前に、数分程度でさまざまなユーザーロールについて理解を深めてください。

目次

ユーザーロールの概要

Amazon WorkDocs では、以下のユーザーロールが定義さします。ユーザープロファイルを編集することにより、ユーザーのロールを変更できます。詳細については、「ユーザーの編集」を参照してください。

- 管理者: ユーザーの管理とサイト設定の定義のためのアクセス権限など、サイト全体の管理者権限のある有料ユーザー。ユーザーを管理者に昇格する方法については、「ユーザーを管理者に昇格させる」をご参照ください。
- [パワーユーザー]: 管理者からの権限の特別なセットを持つ有料ユーザー。パワーユーザーのアクセス許可を設定する方法についての詳細は、「セキュリティ — シンプルな ActiveDirectoryサイト」および「セキュリティ — ActiveDirectory コネクターサイト」を参照してください。
- [User] (ユーザー): Amazon WorkDocs のサイトでファイルを保存および他のユーザーと共同作業ができる有料ユーザー。
- Guest user (ゲストユーザー): ファイルを表示できる無料ユーザー。ゲストユーザーをユーザー、パワーユーザー、または管理者というロールにアップグレードすることができます。

> **Note**
>
> ゲストユーザーの役割を変更する場合、元に戻せない1回限りのアクションが実行されます。

Amazon WorkDocs では、これらの追加のユーザータイプも定義します。

WS ユーザー

WorkSpaces WorkSpace が割り当てられているユーザー。

- すべてのAmazon WorkDocs 機能へアクセスできる
- 50 GB のデフォルトストレージ (有料で 1 TB にアップグレード可能)
- 月額料金なし

アップグレードされた WS ユーザー

WorkSpaces WorkSpace が割り当てられ、アップグレードされたストレージを持つユーザー。

- すべての Amazon WorkDocs 機能へアクセスできる

- 1 TB のデフォルトストレージ (従量制の追加のストレージを利用できます)
- 月額料金の対象

Amazon WorkDocs の ユーザー

WorkSpaces WorkSpace が割り当てられていないアクティブな Amazon WorkDocs ユーザー。

- すべての Amazon WorkDocs 機能へアクセスできる
- 1 TB のデフォルトストレージ (従量制の追加のストレージを利用できます)
- 月額料金の対象

管理コントロールパネルを起動する

Amazon WorkDocs ウェブクライアントの管理コントロールパネルを使用して、自動アクティベーションのオフとオンを切り替えたり、ユーザーのロールと設定を変更したりできます。

管理者用コントロールパネルを開くには

1. WorkDocs クライアントの右上隅にあるプロファイルアイコンを選択します。

2. [管理] で、[管理コントロールパネルを開く] を選択します。

> **Note**
>
> 一部のコントロールパネルのオプションは、クラウドディレクトリと接続ディレクトリで異なります。

自動アクティベーションをオフにする

ディレクトリ内のすべてのユーザーを新しいサイトに追加したくない場合や、新しいサイトに招待するユーザーに異なる権限とロールを設定したい場合は、自動アクティベーションをオフにします。自動アクティベーションをオフにすると、新しいユーザーをサイトに招待できるユーザー (現在のユー

ザー、パワー ユーザー、管理者) を決定することもできます。このステップでは、両方のタスクを実行する方法を説明します。

自動アクティベーション をオフにするには

1. WorkDocs クライアントの右上隅にあるプロファイル アイコンを選択します。。

2. [管理] で、[管理コントロールパネルを開く] を選択します。
3. [セキュリティ] まで下にスクロールし、 [変更] を選択します。

   [Policy Settings] (ポリシーの設定) ダイアログボックスが表示されます。
4. [Auto activation] (自動アクティベーション) で、 [Allow all users in your directory to be automatically activated upon their first login to your WorkDocs site] (WorkDocsサイトへの初回ログイン時に、ディレクトリ内のすべてのユーザーを自動的にアクティベーションすることを許可する) の横のチェックボックスをオフにします。

   [Who should be allowed to activate directory users in your WorkDocs site] (WorkDocs サイトでディレクトリユーザーをアクティベートすることを許可する人) でオプションは変更されます。現在のユーザーに新しいユーザーを招待させたり、パワーユーザーや他の管理者にその機能を与えることもできます。
5. オプションを選択し、 変更の保存 を選択します。

手順 1 ~ 4 を繰り返して、自動アクティベーションを再度有効にします。

リンク共有の管理

このトピックでは、リンク共有を管理する方法について説明します。Amazon WorkDocs ユーザーは、ファイルとフォルダーへのリンクを共有することで、ファイルとフォルダーを共有できます。ファイル リンクは組織の内外で共有できますが、フォルダリンクは組織内部でのみ共有できます。管理者は、リンクを共有できるユーザーを管理します。

リンク共有を有効にするには

1. WorkDocs クライアントの右上隅にあるプロファイルアイコンを選択します。

2. [管理]で、[管理コントロールパネルを開く] を選択します。
3. [セキュリティ] まで下にスクロールし、 [変更] を選択します。

   [ポリシーの設定] ダイアログボックスが表示されます。
4. 「共有可能なリンクの設定を選択してください」で、次のオプションを選択します。

   - サイト全体または公開されている共有可能なリンクを許可しない-すべてのユーザーのリンク共有を無効にします。
   - サイト全体の共有可能なリンクの作成をユーザーに許可するが、公開共有可能なリンクの作成は許可しない — リンク共有をサイトメンバーのみに制限します。マネージドユーザーはこの種類のリンクを作成できます。
   - ユーザーはサイト全体の共有可能なリンクを作成できますが、公開共有可能なリンクを作成できるのはパワーユーザーだけです。マネージドユーザーはサイト全体のリンクを作成できますが、パブリックリンクを作成できるのはパワーユーザーだけです。パブリックリンクでは、インターネット上の任意のユーザーともアクセスできます。
   - すべてのマネージドユーザーは、サイト全体および公開共有可能なリンクを作成できます。マネージドユーザーは、公開リンクを作成できます。
5. [変更の保存] をクリックします。

自動アクティベーションを有効にしてユーザーの招待を制御する

自動アクティベーションを有効にすると (デフォルトではオンになっています) 、ユーザーが他のユーザーを招待できるようになります。以下のいずれかに権限を付与できます。

- すべてのユーザー
- パワーユーザー
- 管理者

権限を完全に無効にすることもできます。このステップでは、その方法を説明します。

招待の権限を設定するには

1. WorkDocs クライアントの右上隅にあるプロファイルアイコンを選択します。

2. [管理] で、[管理コントロールパネルを開く] を選択します。
3. [セキュリティ] まで下にスクロールし、 [変更] を選択します。

   [ポリシーの設定] ダイアログボックスが表示されます。
4. [WorkDocsサイトでディレクトリユーザーにアクティベートを許可できる人] で、[外部ユーザーとの共有] チェックボックスを選択し、チェックボックスの下にあるオプションのいずれかを選択し、[変更の保存] を選択します。

   -もしくは-

   誰にも新しいユーザーを招待させたくない場合は、チェックボックスをオフにして、[変更を保存] を選択します。

新しいユーザーの招待

ディレクトリに参加する新しいユーザーを招待できます。また、既存のユーザーが新しいユーザーを招待できるようにすることもできます。詳細については、このガイドの「セキュリティ — シンプルな ActiveDirectoryサイト」および「セキュリティ — ActiveDirectory コネクターサイト」を参照してください。

新しいユーザーを招待するには

1. クライアントアプリケーションの右上隅にあるプロファイルアイコンを選択します。

2. [管理] で、[管理コントロールパネルを開く] を選択します。
3. [ユーザーを管理] で、[ユーザーを招待] を選択します。
4. [ユーザーを招待] ダイアログボックスで、[誰を招待したいですか？] に招待者のメールアドレスを入力し、[送信] を選択します。招待者ごとに、このステップを繰り返します。

Amazon WorkDocs は、各受信者に招待メールを送信します。メールには、Amazon WorkDocs アカウントの作成方法に関するリンクと説明が含まれています。招待リンクは 30 日後に有効期限が切れます。

ユーザーの編集

ユーザー情報や設定を変更できます。

ユーザーを編集するには

1. クライアントアプリケーションの右上隅にあるプロファイルアイコンを選択します。

2. [管理]で、[管理コントロールパネルを開く] を選択します。
3. [ユーザーを管理] で、ユーザー名の横にある鉛筆アイコン
(✎)
を選択します。
4. [ユーザーを編集] ダイアログボックスで、次のオプションを編集することができます。

   [名] (クラウドディレクトリのみ)

   ユーザーの名前。

   [姓] (クラウドディレクトリのみ)

   ユーザーの姓。

   [ステータス]

   ユーザーが [アクティブ]か [非アクティブ]かどうかを指定します。詳細については、「ユーザーの無効化」をご参照ください。

   [Role] (ロール)

   人がユーザーであるか管理者であるかを指定します。また WorkSpace が割り当てられているユーザーをアップグレードまたはダウングレードすることもできます。詳細については、「ユーザーロールの概要」をご参照ください。

   [ストレージ]

   既存ユーザーのストレージ制限を指定します。

5. [変更を保存] を選択します。

ユーザーの無効化

ユーザーのステータスを [非アクティブ] に変更することで、ユーザーのアクセスを無効にします。

ユーザーのステータスを非アクティブに変更するには

1. クライアントアプリケーションの右上隅にあるプロファイルアイコンを選択します。

2. [管理] で、[管理コントロールパネルを開く] を選択します。
3. [ユーザーを管理]で、ユーザー名の横にある鉛筆アイコン
(
)
を選択します。
4. [非アクティブ] を選択し、[変更を保存] を選択します。

非アクティブ化されたユーザーは、Amazon WorkDocs サイトにアクセスできません。

> **Note**
>
> ユーザーを [非アクティブ] ステータスに変更しても、Amazon WorkDocs サイトからのユーザーのファイルやフォルダ、フィードバックは削除されません。ただし、アクティブユーザーに、非アクティブユーザーのファイルやフォルダを転送することができます。詳細については、「ドキュメントの所有権の委譲」を参照してください。

保留中のユーザーを削除する

保留中のステータスの Simple AD ユーザー、AWS管理対象の Microsoft
ユーザー、および AD Connector ユーザーを削除できます。これらの
ユーザーの1人を削除するには、ユーザー名の横にあるごみ箱アイコン
(
)
を選択します。

Amazon WorkDocsサイトには、ゲストユーザーではないアクティブユーザーが、常に少なくとも 1 人いる必要があります。すべてのユーザーを削除する必要がある場合は、サイト全体を削除してください。

登録されたユーザーを削除することはおすすめしません。その代わり、ユーザーを [アクティブ] から [非アクティブ] のステータスに切り替えて、Amazon WorkDocs のサイトにアクセスできないようにする必要があります。

ドキュメントの所有権の委譲

非アクティブユーザーのファイルやフォルダをアクティブユーザーに委譲できます。ユーザーを無効にする方法の詳細は、「ユーザーの無効化」を参照してください。

> **Warning**
> このアクションは元に戻すことができません。

ドキュメントの所有権を委譲するには

1. クライアントアプリケーションの右上隅にあるプロファイルアイコンを選択します。

2. [管理] で、[管理コントロールパネルを開く] を選択します。
3. [ユーザーを管理]で、非アクティブなユーザーを検索します。
4. 非アクティブなユーザーの名前の横にある鉛筆アイコン
   (✎)
   を選択します。
5. [ドキュメントの所有権の委譲] を選択して、新しい所有者の E メールアドレスを入力します。
6. [変更を保存] を選択します。

ユーザーリストのダウンロード

[管理コントロールパネル] からユーザーのリストをダウンロードするには、Amazon WorkDocs Companion をインストールする必要があります。Amazon WorkDocs Companion をインストールするには、「Amazon WorkDocsのアプリと統合」を参照してください。

ユーザーのリストをダウンロードするには

1. クライアントアプリケーションの右上隅にあるプロファイルアイコンを選択します。

2. [管理] で、[管理コントロールパネルを開く] を選択します。
3. [ユーザーを管理] で、[ユーザーをダウンロード)] を選択します。
4. [ユーザーをダウンロード] で、次のいずれかのオプションを使って、ユーザーのリストを `.json` ファイルとしてデスクトップにエクスポートします。

   - すべてのユーザー
   - ゲストユーザー
   - WS ユーザー
   - ユーザー
   - パワーユーザー
   - 管理

5. WorkDocs は、以下のいずれかの場所にファイルを保存します。

   - Windows – `Downloads/WorkDocsDownloads`
   - macOS – *`hard drive`*`/users/`*`username`*`/WorkDocsDownloads/folder`

   > **Note**
   >
   > ダウンロードには時間がかかる場合があります。また、ダウンロードしたファイルは `/~users` フォルダには入りません。

これらのユーザーロールの詳細については、「ユーザーロールの概要」をご参照ください。

共有とコラボレーション

ユーザーは、リンクまたは招待を送信してコンテンツを共有することができます。外部共有を有効にすると、ユーザーは外部ユーザーと共同作業することもできます。

Amazon WorkDocs は、権限を使用してフォルダやファイルへのアクセスを制御します。システムは、ユーザーのロールに基づいて権限を適用します。

目次

リンクの共有

ユーザーは、[リンクの共有] を選択して Amazon WorkDocs コンテンツへのハイパーリンクをすばやくコピーし、組織内外の同僚や外部ユーザーと共有できます。ユーザーはリンクを共有するときに、以下のアクセスオプションのいずれかを許可するようにリンクを設定できます。

- Amazon WorkDocs サイトのすべてのメンバーは、ファイルを検索し、表示し、コメントすることができます。
- このリンクがあれば、Amazon WorkDocs サイトのメンバーでない人でも、誰でもファイルを表示できます。このリンクオプションでは、アクセス許可が表示のみに制限されます。

表示のアクセス権限のある受取人は、ファイルの表示のみが可能です。コメントのアクセス権限により、ユーザーは新しいファイルのアップロード、既存のファイルの削除などの更新オペレーションや削除オペレーションのコメントと実行が可能です。

デフォルトでは、すべての管理対象ユーザーがパブリックリンクを作成できます。この設定を変更するには、管理コントロールパネルから [Security] (セキュリティ) 設定を更新します。詳細については、「サイト管理者コントロールパネル WorkDocs からの Amazon の管理」を参照してください。

招待による共有

招待による共有を有効にすると、サイトユーザーは招待メールを送信することで、個々のユーザーやグループとファイルやフォルダーを共有できます。招待状には共有コンテンツへのリンクが含まれており、招待者は共有ファイルまたはフォルダを開くことができます。招待者は、それらのファイルやフォルダーを他のサイト メンバーや外部ユーザーと共有することもできます。

招待されたユーザーごとに権限レベルを設定できます。作成したディレクトリグループを使用して招待で共有するチームフォルダを作成することもできます。

> **Note**
>
> 共有招待状には、ネストされたグループのメンバーは含まれません。これらのメンバーを含めるには、そのメンバーを「招待による共有」リストに追加する必要があります。

詳細については、「サイト管理者コントロールパネル WorkDocs からの Amazon の管理」を参照してください。

外部共有

外部共有を使用すると、Amazon WorkDocs サイトの管理対象ユーザーは、追加コストをかけずにファイルやフォルダーを共有し、外部ユーザーと共同作業することができます。サイトユーザーは、受信者が Amazon WorkDocs サイトの有料ユーザーである必要がなく、ファイルやフォルダーを外部ユーザーと共有できます。外部共有を有効にすると、ユーザーは共有したい外部ユーザーの電子メール アドレスを入力し、適切なビューア共有権限を設定できます。外部ユーザーを追加すると、権限は閲覧者のみに制限され、他の権限は使用できなくなります。外部ユーザーは、共有ファイルやフォルダへのリンクを含むメール通知を受け取ります。リンクを選択すると、外部ユーザーはサイトに移動し、そこで認証情報を入力して Amazon WorkDocs にログインします。共有されるファイルやフォルダは [私と共有]ビューに表示されます。

ファイル所有者はいつでも共有アクセス権限を変更したり、外部ユーザーのアクセス権限をファイルやフォルダから削除したりすることができます。管理対象のユーザーが外部ユーザーとコンテンツを共有できるようにするには、サイト管理者がサイトの外部共有を有効にする必要があります。[Guest user] (ゲストユーザー) が共同編集者または共同所有者になるには、サイト管理者がそれらのユーザーを [User] (ユーザー) レベルにアップグレードする必要があります。詳細については、「ユーザーロールの概要」をご参照ください。

デフォルトでは、外部共有は有効になっており、すべてのユーザーが外部ユーザーを招待できます。この設定を変更するには、管理コントロールパネルから [Security] (セキュリティ) 設定を更新します。詳細については、「サイト管理者コントロールパネル WorkDocs からの Amazon の管理」を参照してください。

アクセス許可

Amazon WorkDocs は、アクセス許可を使用してフォルダとファイルへのアクセスを制御します。アクセス権はユーザーのロールに基づいて適用されます。

内容

ユーザーロール

ユーザーロールはフォルダとファイルの権限を制御します。以下のユーザーロールをフォルダレベルで適用できます。

- フォルダ所有者 – フォルダまたはファイルの所有者。
- フォルダ共同所有者 – 所有者によってフォルダまたはファイルの共同所有者として指定されたユーザーまたはグループ。
- フォルダ寄稿者 — フォルダへの無制限アクセス権限を持つ人。
- フォルダ表示者 — フォルダへのアクセスが制限されている (読み取り専用権限) を持つ人。

以下のユーザーロールを個々のファイルレベルで適用できます。

- 所有者 – ファイルの所有者。
- 共同所有者 – 所有者によってファイルの共同所有者として指定されたユーザーまたはグループ。
- Contributor* – ファイルに関するフィードバックの提供を許可されたユーザー。
- 表示者 — ファイルへのアクセスが制限されている (読み取り専用権限) を持つユーザー。

- 匿名表示者– 外部表示リンクを使用して共有されたファイルを表示できる、組織外部の登録されていないユーザー。特に明記されていない限り、匿名表示者は表示者と同じアクセス許可を持ちます。

* 寄稿者は既存のファイルバージョンの名前を変更できません。ただし、別の名前のファイルの新しいバージョンをアップロードすることはできます。

共有フォルダのアクセス許可

共有フォルダのユーザーロールには、次のアクセス許可が適用されます。

> **Note**
>
> フォルダに適用されるアクセス許可は、そのフォルダ内のサブフォルダとファイルにも適用されます。

- 表示 – 共有フォルダの内容を表示します。
- サブフォルダを表示 – サブフォルダを表示します。
- 共有を表示 – フォルダを共有している他のユーザーを表示します。
- フォルダをダウンロード – フォルダをダウンロードします。
- サブフォルダを追加 – サブフォルダを追加します。
- 共有 – 最上位フォルダを他のユーザーと共有します。
- 共有を取り消す – 最上位フォルダの共有を取り消します。
- サブフォルダを削除 – サブフォルダを削除します。
- 最上位フォルダを削除 – 最上位共有フォルダを削除します。

	ビュー	サブフォルダを表示	共有を表示	フォルダをダウンロードします。	サブフォルダを追加	共有	共有を取り消す	サブフォルダを削除	最上位フォルダを削除
フォルダ所有者	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
フォルダ共有者	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
フォルダ寄稿者	✓	✓	✓	✓	✓				
フォルダ表示者	✓	✓	✓	✓					

共有フォルダ内のファイルのアクセス許可

共有フォルダ内のファイルのユーザーロールには、次のアクセス許可が適用されます。

- 注釈 –ファイルにフィードバックを追加します。
- 削除 – 共有フォルダのファイルを削除します。
- 名前を変更 — ファイルの名前を変更します。
- アップロード – ファイルの新しいバージョンをアップロードします。
- ダウンロード – ファイルをダウンロードします。これがデフォルトのアクセス許可です。ファイルのプロパティを使用して、共有ファイルのダウンロードを許可または拒否することができます。
- ダウンロードを抑止 – ファイルをダウンロードさせないようにします。

> **Note**
>
> - このオプションを選択しても、表示 権限を持つユーザーは引き続きファイルをダウンロードできます。これを防ぐには、共有フォルダを開いて、そのユーザーにダウンロードさせたくない各ファイルの [ダウンロードを許可] 設定をクリアします。
> - MP4 ファイルの所有者または共同所有者がそのファイルのダウンロードを許可しない場合、寄稿者および視聴者は Amazon WorkDocs ウェブクライアントでそれを再生できません。

- 共有 – 他のユーザーとファイルを共有します。
- 共有を取り消す – ファイルの共有を取り消します。
- 表示 – 共有フォルダのファイルを表示します。
- 共有を表示 –ファイルを共有している他のユーザーを表示します。
- 注釈を表示 – 他のユーザーからのフィードバックを表示します。
- アクティビティを表示 – ファイルのアクティビティ履歴を表示します。
- バージョンを表示 – ファイルの以前のバージョンを表示します。
- バージョンを削除 — ファイルの 1 つ以上のバージョンを削除します。
- バージョンを復元 — 削除したファイルの 1 つまたは複数のバージョンを復元します。
- すべてのプライベートコメントを表示 – 所有者/共同所有者は、コメントへの返信ではなくても、ドキュメントのすべてのプライベートコメントを見ることができます 。

	注釈	削除	名前を変更	アップロード	ダウンロード	ダウンロードを抑止	共有	共有を取り消す	ビュー	共有を表示	注釈を表示	アクティビティを表示	バージョンを表示	バージョンを削除	バージョンを復元	すべてのプライベートコメントを表示**
ファイル所有者*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
フォルダ所有者*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
フォルダ	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

	注釈	削除	名前を変更	アップロード	ダウンロード	ダウンロードを抑止	共有	共有を取り消す	ビュー	共有を表示	注釈を表示	アクティビティを表示	バージョンを表示	バージョンを削除	バージョンを復元	すべてのプライベートコメントを表示**
共同所有者**																
フォルダ寄稿者***	✓			✓	✓				✓	✓	✓	✓	✓			

	注釈	削除	名前を変更	アップロード	ダウンロード	ダウンロードを抑止	共有	共有を取り消す	ビュー	共有を表示	注釈を表示	アクティビティを表示	バージョンを表示	バージョンを削除	バージョンを復元	すべてのプライベートコメントを表示 **
フォルダ表示者					✓				✓	✓						
匿名表示者									✓	✓						

* この場合、ファイル所有者は、ファイルの元のバージョンを共有フォルダにアップロードしたユーザーです。このロールのアクセス許可は、共有フォルダ内のすべてのファイルではなく、所有ファイルにのみ適用されます。

** 所有者と共同所有者は、すべてのプライベートコメントを表示できます。寄稿者が見ることができるプライベートコメントは、それが自分のコメントへの応答である場合に限られます。

*** コントリビューターは既存のファイルバージョンの名前を変更できません。ただし、別の名前のファイルの新しいバージョンをアップロードすることはできます。

共有フォルダダにないファイルのアクセス許可

次の権限は、共有フォルダに存在しないファイルのユーザー ロールに適用されます。

- 注釈 –ファイルにフィードバックを追加します。
- 削除 –ファイルを削除します。
- 名前を変更 — ファイルの名前を変更します。
- アップロード – ファイルの新しいバージョンをアップロードします。
- ダウンロード – ファイルをダウンロードします。これがデフォルトのアクセス許可です。ファイルのプロパティを使用して、共有ファイルのダウンロードを許可または拒否することができます。
- ダウンロードを抑止 – ファイルをダウンロードさせないようにします。

> **Note**
>
> MP4 ファイルの所有者または共同所有者がそのファイルのダウンロードを許可しない場合、寄稿者および視聴者は Amazon WorkDocs ウェブクライアントでそれを再生できません。

- 共有 – 他のユーザーとファイルを共有します。
- 共有を取り消す – ファイルの共有を取り消します。
- 表示 –ファイルを表示します。
- 共有を表示 –ファイルを共有している他のユーザーを表示します。
- 注釈を表示 – 他のユーザーからのフィードバックを表示します。
- アクティビティを表示 – ファイルのアクティビティ履歴を表示します。
- バージョンを表示 – ファイルの以前のバージョンを表示します。
- バージョンを削除 — ファイルの 1 つ以上のバージョンを削除します。
- バージョンを復元 — 削除したファイルの 1 つまたは複数のバージョンを復元します。

	注釈	削除	名前を変更	アップロード	ダウンロード	ダウンロードを抑止	共有	共有を取り消す	ビュー	共有を表示	注釈を表示	アクティビティを表示	バージョンを表示	バージョンを削除	バージョンを復元
所有者*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
共同所有者*	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
寄稿者**	✓			✓	✓				✓	✓	✓	✓	✓		
表示者					✓				✓	✓					
匿名表示者									✓	✓					

* ファイル所有者と共同所有者は、すべてのプライベートコメントを表示できます。寄稿者が見ることができるプライベートコメントは、それが自分のコメントへの応答である場合に限られます。

** コントリビューターは既存のファイルバージョンの名前を変更できません。ただし、別の名前のファイルの新しいバージョンをアップロードすることはできます。

共同編集の有効化

共同編集オプションは、[管理コントロールパネル] の [オンライン編集の設定] で有効にすることができます。

目次

Hancom ThinkFree の有効化

Amazon WorkDocs サイトで Hancom ThinkFree を有効にすると、ユーザーは Amazon WorkDocs ウェブアプリケーションから Microsoft Office ファイルを作成して、共同で編集することができます。詳細については、「Editing with Hancom ThinkFree(Hancom ThinkFree で編集する)」をご参照ください。

Hancom ThinkFree は、Amazon WorkDocs ユーザーであれば、追加料金なしで利用することができます。追加のライセンスやソフトウェアのインストールは必要はありません。

Hancom ThinkFree を有効にするには

[Admin control panel] (管理コントロールパネル) から、Hancom ThinkFree 編集を有効にします。

1. [My Account] (自分のアカウント) で、[Open admin control panel] (管理コントロールパネルを開く) を選択します。
2. [Hancom Online Editing] (Hancom オンライン編集) の [Change] (変更) を選択します。
3. [Enable Hancom Online Editing Feature] (Hancom オンライン編集機能の有効化) を選択し、利用規約を確認して、 [Save] (保存) を選択します。

Hancom ThinkFree を無効にするには

[Admin control panel] (管理コントロールパネル) から、Hancom ThinkFree 編集を無効にします。

1. [My Account] (自分のアカウント) で、[Open admin control panel] (管理コントロールパネルを開く) を選択します。

2. [Hancom Online Editing] (Hancom オンライン編集) の [Change] (変更) を選択します。
3. [Enable Hancom Online Editing Feature] (Hancom オンライン編集機能の有効化) チェックボックスをオフにし、[Save] (保存) を選択します。

[Office Online で開く] の有効化

Amazon WorkDocs サイトの [Office Online で開く] を有効にすると、ユーザーは Amazon WorkDocs ウェブアプリケーションから Microsoft Office ファイルを共同で編集できます。

Open with Office Online (Office オンラインで開く) は、Office Online で編集するためのライセンスを持ち、Microsoft Office 365 Work (ワーク) または School (スクール) アカウントも所有している Amazon WorkDocs のユーザーは、追加料金なしで利用できます。詳細については、「Open with Office Online」(Office Online で開く) をご参照ください。

[Office Online で開く] を有効にするには

[Admin control panel] (管理コントロールパネル) から、[Office Online で開く] を有効にします。

1. [マイアカウント] で、[管理コントロールパネルを開く] を選択します。
2. [Office Online] で、[変更] を選択します。
3. [Office Onlineの有効化] を選択し、[保存] を選択します。

[Office Online で開く] を無効にするには

[管理コントロールパネル] から、[Office Online で開く] を無効にします。

1. [マイアカウント] で、[管理コントロールパネルを開く] を選択します。
2. [Office Online] で、[変更] を選択します。
3. [Office Onlineの有効化]チェックボックスをオフにし、[保存]を選択します。

Amazon へのファイルの移行 WorkDocs

Amazon WorkDocs 管理者は、Amazon WorkDocs Migration Service を使用して、複数のファイルとフォルダを Amazon WorkDocs サイトに大規模に移行できます。Amazon WorkDocs Migration Service は、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) と連携します。これにより、部門別ファイル共有とホームドライブまたはユーザーファイル共有を Amazon に移行できます WorkDocs。

このプロセス中、Amazon WorkDocs は AWS Identity and Access Management （ IAM) ポリシーを提供します。このポリシーを使用して、Amazon WorkDocs Migration Service へのアクセスを許可する新しいIAMロールを作成し、以下を実行します。

- 指定した Amazon S3 バケットを読み取り、リストアップします。
- 指定した Amazon WorkDocs サイトを読み書きします。

ファイルとフォルダを Amazon に移行するには、次のタスクを実行します WorkDocs。作業を開始する前に、以下のアクセス権限が設定されていることを確認してください。

- Amazon WorkDocs サイトの管理者アクセス許可
- IAM ロールを作成するためのアクセス権限

Amazon WorkDocs サイトが WorkSpaces フリートと同じディレクトリに設定されている場合は、次の要件に従う必要があります。

- Amazon WorkDocs アカウントのユーザー名に Admin を使用しないでください。Admin は Amazon の予約済みユーザーロールです WorkDocs。
- Amazon WorkDocs 管理者ユーザータイプは、アップグレードされた WS ユーザー である必要があります。詳細については、「ユーザーロールの概要」および「ユーザーの編集」を参照してください。

> **Note**
>
> ディレクトリ構造、ファイル名、およびファイルコンテンツは、Amazon に移行するときに保持されます WorkDocs。ファイルの所有者とアクセス権限は維持されません。

タスク

ステップ 1: 移行するコンテンツの準備

コンテンツを移行用に用意するには

1. Amazon WorkDocs サイトの My Documents で、ファイルとフォルダを移行するフォルダを作成します。
2. 次の点を確認します。
   - ソースフォルダに含まれるファイルとサブフォルダは 100,000 個以下。この制限を超えると、移行は失敗します。
   - 個々のファイルが 5 TB を超えない。
   - 各ファイル名は 255 文字以下にする必要があります。Amazon WorkDocs Drive は、260 文字以下のフルディレクトリパスを持つファイルのみを表示します。

> **Warning**
>
> 名前に以下の文字が含まれるファイルやフォルダを移行しようとすると、エラーが発生し、移行プロセスが停止することがあります。このエラーが発生した場合は、[レポートをダウンロード] を選択して、エラー、移行に失敗したファイル、正常に移行されたファイルがリストされたログをダウンロードします。

- [末尾のスペース] - 例: ファイル名の末尾の余分なスペース。
- [先頭または末尾のピリオド] - 例: `.file`、`.file.ppt`、`.`、`..`、または `file.`
- [先頭または末尾のチルダ] - 例: `file.doc~`、`~file.doc`、または `~$file.doc`
- [**`.tmp`**で終わるファイル名] - 例: `file.tmp`
- [これらの大文字と小文字を区別する用語に完全に一致するファイル名] - `Microsoft User Data`、`Outlook files`、`Thumbs.db`、または `Thumbnails`

- [次の文字のいずれかを含んでいるファイル名] - * (アスタリスク)、/ (フォーワードスラッシュ)、\ (バックスラッシュ)、: (コロン)、< (小なり記号)、> (大なり記号)、? (疑問符)、| (縦線/パイプ)、" (二重引用符)、\202E (文字コード 202E)。

ステップ 2： Amazon S3 にファイルをアップロードする

Amazon S3 にファイルをアップロードするには

1. ファイルとフォルダをアップロードする新しい Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケットを AWS アカウントに作成します。Amazon S3 バケットは、Amazon WorkDocs サイトと同じ AWS アカウントと AWS リージョンにある必要があります。詳細については、「Amazon Simple Storage Service User Guide」(Amazon Simple Storage Service ユーザーガイド) の「Getting started with Amazon Simple Storage Service」(Amazon Simple ストレージサービスを開始する) を参照してください。
2. 前の手順で作成した Amazon S3 バケットにファイルをアップロードします。 AWS DataSync を使用して、ファイルとフォルダを Amazon S3 バケットにアップロードすることをお勧めします。 DataSync には、追加の追跡、レポート、同期機能が用意されています。詳細については、AWS DataSync 「 ユーザーガイド」の「 AWS DataSync の仕組み」と「 のアイデンティティベースのポリシー (IAM ポリシー) の使用 DataSync」を参照してください。

ステップ 3: 移行のスケジューリング

ステップ 1 と 2 を完了したら、Amazon WorkDocs Migration Service を使用して移行をスケジュールします。移行サービスでは、移行リクエストを処理し、移行を開始できる旨の E メールが送信されるまでに最大 1 週間かかる場合があります。E メールを受信する前に移行を開始すると、管理コンソールに待機することを指示するメッセージが表示されます。

移行をスケジュールすると、Amazon WorkDocs ユーザーアカウントのストレージ設定は自動的に無制限 に変更されます。

> **Note**
>
> Amazon WorkDocs ストレージの制限を超えるファイルを移行すると、追加コストが発生する可能性があります。詳細については、「Amazon WorkDocs 料金」を参照してください。

Amazon WorkDocs Migration Service は、移行に使用する AWS Identity and Access Management (IAM) ポリシーを提供します。このポリシーでは、指定した Amazon S3 バケットと Amazon WorkDocs サイトへのアクセスを Amazon WorkDocs Migration Service に許可する新しいIAMロールを作成します。また、Amazon SNSの E メール通知をサブスクライブして、移行リクエストがスケジュールされたとき、および移行リクエストの開始と終了時に更新を受信します。

移行をスケジューリングするには

1. Amazon WorkDocs コンソールから、アプリ 、移行 を選択します。
   - Amazon WorkDocs Migration Service に初めてアクセスする場合は、Amazon E SNSメール通知をサブスクライブするように求められます。サブスクライブし、受信したメールメッセージで確定してから、[Continue] (続行) を選択します。
2. 次に、[移行を作成] を選択します。
3. [ソースタイプ] で、[Amazon S3] を選択します。
4. [Next (次へ)] を選択します。
5. データソースと検証 の場合、サンプルポリシー で、指定されたIAMポリシーをコピーします。
6. 前のステップでコピーしたIAMポリシーを使用して、次のように新しいIAMポリシーとロールを作成します。
   a. でIAMコンソールを開きますhttps://console.aws.amazon.com/iam/。
   b. [ポリシー]、[ポリシーの作成] を選択します。
   c. クリップボードにコピーしたIAMポリシーを選択してJSON貼り付けます。
   d. [ポリシーの確認] を選択します。ポリシーの名前と説明を入力します。
   e. [Create policy] を選択します。
   f. [ロール]、[ロールの作成] を選択します。
   g. 別のAWSアカウント を選択します。[アカウント ID] に、次のいずれかを入力します。
      - 米国西部 (バージニア北部) リージョンの場合は、899282061130 を入力します
      - 米国西部 (オレゴン) リージョンの場合は、814301586344 を入力します
      - アジアパシフィック (シンガポール) リージョンの場合は、900469912330 を入力します
      - アジアパシフィック (シドニー) リージョンの場合は、031131923584 を入力します
      - アジアパシフィック (東京) リージョンの場合は、178752524102 を入力します
      - 欧州 (アイルランド) リージョンの場合は、191921258524 を入力します

h. 作成した新しいポリシーを選択し、[次へ: 確認] を選択します。新しいポリシーが表示されない場合は、最新表示アイコンを選択します。
i. ロール名と説明を入力します。[ロールの作成] を選択します。
j. [ロール] ページの [ロール名]で、作成したロール名を選択します。
k. 概要ページで、最大CLI/APIセッション時間を 12 時間に変更します。
l. 次のステップで使用するように、 ロールARNをクリップボードにコピーします。

7. Amazon WorkDocs Migration Service に戻ります。データソースと検証 の場合、ロール ARNので、前のステップでコピーしたロールARNからIAMロールを貼り付けます。
8. [Bucket] (バケット) では、ファイルの移行元の Amazon S3 バケットを選択します。
9. [Next (次へ)] を選択します。
10. 送信先 WorkDocs フォルダを選択する では、Amazon で送信先フォルダを選択してファイルを WorkDocs 移行します。
11. [Next (次へ)] を選択します。
12. [Review] (確認) の [Title] (タイトル) に、この移行の名前を入力します。
13. 移行の日付と時刻を選択します。
14. [Send] (送信) を選択します。

ステップ 4: 移行を追跡する

Amazon WorkDocs Migration Service ランディングページ内から移行を追跡できます。Amazon WorkDocs サイトからランディングページにアクセスするには、「アプリ」、「移行」を選択します。詳細を表示し進捗状況を追跡する移行を選択します。移行をキャンセルする必要がある場合は [移行をキャンセル] を選択できます。また、移行のタイムラインを更新するには [更新] を選択します。移行が完了した後は、[レポートをダウンロード] を選択して、正常に移行されたファイル、失敗したもの、エラーのログをダウンロードできます。

次のような移行の状態で移行のステータスを表します。

予定

移行がスケジューリングされていますがまだ開始されていません。予定された開始時刻の 5 分前までであれば、移行をキャンセルしたり、移行の開始時間を更新したりできます。

移行中

移行が進行中です。

成功

移行が完了しました。

一部成功

移行が一部成功しました。詳細については、移行の概要を表示し、提供されているレポートをダウンロードします。

[失敗]

移行に失敗しました。詳細については、移行の概要を表示し、提供されているレポートをダウンロードします。

キャンセル

移行がキャンセルされました。

ステップ 5: リソースをクリーンアップする

移行が完了したら、IAMコンソールから作成した移行ポリシーとロールを削除します。

IAM ポリシーとロールを削除するには

1. でIAMコンソールを開きますhttps://console.aws.amazon.com/iam/。
2. [Policies] (ポリシー) を選択します。
3. 作成したロールを検索し、選択します。
4. [ポリシーアクション] で、[削除] を選択します。
5. [削除] を選択します。
6. [ロール] を選択します。
7. 作成したロールを検索し、選択します。
8. [ロールの削除]、[削除] を選択します。

スケジュールされた移行が開始されると、Amazon WorkDocs ユーザーアカウントのストレージ設定は自動的に無制限 に変更されます。移行後、管理者コントロールパネルを使用してその設定を変更できます。詳細については、「ユーザーの編集」を参照してください。

Amazon WorkDocs の問題のトラブルシューティング

以下の情報は、Amazon WorkDocs の問題のトラブルシューティングそ促進します。

問題点

特定の AWS リージョンに Amazon WorkDocs サイトを設定できません

新しい Amazon WorkDocs サイトを設定する場合は、セットアップ中に AWS リージョンを選択します。詳細については、「Amazon WorkDocs の使用を開始する」で特定のユースケースのチュートリアルをご参照ください。

既存の Amazon VPC に Amazon WorkDocs サイトを設定する

新しい Amazon WorkDocs サイトを設定する場合、既存の仮想プライベートクラウド (VPC) を使用してディレクトリを作成します。Amazon WorkDocs は、このディレクトリを使用してユーザーを確認します。

ユーザーがパスワードをリセットする必要がある

ユーザーはサインイン画面で [パスワードをお忘れですか?] を選択すれば、パスワードをリセットできます。

ユーザーが誤って機密文書を共有した

ドキュメントへのアクセスを取り消すには、ドキュメントの横にある [Share by invite] (招待により共有) を選択し、アクセスできなくなるユーザーを削除します。リンクを使用してドキュメントを共有した場合は、[リンクの共有] を選択してリンクを無効にします。

ユーザーが組織を退職し、ドキュメントの所有権を委譲しなかった

管理コントロールパネルで、ドキュメントの所有権を別のユーザーに委譲します。詳細については、「ドキュメントの所有権の委譲」をご参照ください。

複数のユーザーに、Amazon WorkDocs Drive または Amazon WorkDocs Companion をデプロイする必要があります

グループポリシーを使用して企業内の複数のユーザーにデプロイします。詳細については、「Amazon の ID とアクセスの管理 WorkDocs」をご参照ください。Amazon WorkDocs Drive を複数のユーザーにデプロイすることについての具体的な情報は、「Amazon WorkDocs Drive を複数のコンピュータ展開する」を参照してください。

オンライン編集が機能していない

Amazon WorkDocs Companion がインストールされたいることを確認します。Amazon WorkDocs Companion をインストールするには、「Apps & Integrations for Amazon WorkDocs」(Amazon WorkDocs 向けのアプリケーションと統合) をご参照ください。

Amazon Business 用の Amazon WorkDocs の管理

Amazon WorkDocs for Amazon Business の管理者の場合は、Amazon ビジネス認証情報を使用して https://workdocs.aws/ にサインインすることでユーザーを管理できます。

新しいユーザーを Amazon WorkDocs for Amazon Business に招待するには

1. https://workdocs.aws/ で Amazon Business 認証情報を使用してサインインします。
2. Amazon WorkDocs for Amazon Business のホームページで、左側のナビゲーションペインを開きます。
3. [Admin Settings] (管理者設定) を選択します。
4. [Add people] (ユーザーを追加) を選択します。
5. [Recipients] (受取人) に、招待するユーザーのメールアドレスまたはユーザー名を入力します。
6. (オプション) 招待メッセージをカスタマイズします。
7. [Done] (完了) を選択します。

Amazon WorkDocs for Amazon Business でユーザーを検索するには

1. https://workdocs.aws/ で Amazon Business 認証情報を使用してサインインします。
2. Amazon WorkDocs for Amazon Business のホームページで、左側のナビゲーションペインを開きます。
3. [Admin Settings] (管理者設定) を選択します。
4. [Search users] (ユーザー検索) で、ユーザーの名を入力し、**Enter** を押します。

Amazon WorkDocs for Amazon Business でユーザーロールを選択するには

1. https://workdocs.aws/ で Amazon Business 認証情報を使用してサインインします。
2. Amazon WorkDocs for Amazon Business のホームページで、左側のナビゲーションペインを開きます。
3. [Admin Settings] (管理者設定) を選択します。
4. [People] (人員) で、ユーザーの横にある [Role] (ロール) を選択して、ユーザーに割り当てます。

Amazon WorkDocs for Amazon Business でユーザーを削除するには

1. https://workdocs.aws/ で Amazon Business 認証情報を使用してサインインします。
2. Amazon WorkDocs for Amazon Business のホームページで、左側のナビゲーションペインを開きます。
3. [Admin Settings] (管理者設定) を選択します。
4. [People] (人員) の下で、省略記号 (...) を選択します。
5. [Delete] (削除) を選択します。
6. プロンプトが表示されたら、ユーザのファイルの転送先となる新しいユーザを入力し、[Delete] (削除) を選択します。

許可リストに追加する IP アドレスとドメイン

Amazon WorkDocs にアクセスするデバイスに IP フィルタリングを実装する場合は、以下の IP アドレスと IP アドレスを許可リストに追加します。そうすることで、Amazon WorkDocs と Amazon WorkDocs Drive が WorkDocs サービスに接続できるようになります。

- zocalo.ap-northeast-1.amazonaws.com
- zocalo.ap-southeast-2.amazonaws.com
- zocalo.eu-west-1.amazonaws.com
- zocalo.eu-central-1.amazonaws.com
- zocalo.us-east-1.amazonaws.com
- zocalo.us-gov-west-1.amazonaws.com
- zocalo.us-west-2.amazonaws.com
- awsapps.com
- amazonaws.com
- cloudfront.net
- *.aws.amazon.com
- amazonworkdocs.com
- console.aws.amazon.com
- cognito-identity.us-east-1.amazonaws.com
- firehose.us-east-1.amazonaws.com

IP アドレス範囲を使用する場合は、AWS全般リファレンスの「AWSIP アドレス範囲」を参照してください。

ドキュメント履歴

次の表は、2018 年 2 月に開始される Amazon WorkDocs 管理ガイドの重要な変更点をまとめたものです。このドキュメントの更新に関する通知を受け取るために、RSS フィードをサブスクライブすることができます。

変更	説明	日付
新しいファイル所有者の許可	管理者がバージョン削除権限とバージョン回復権限を付与できるようになりました。権限は DeleteDocumentVersionAPI のリリースの一部です。	2022 年 7 月 29 日
Amazon WorkDocs Backup	コンポーネントがサポートされなくなったため、Amazon WorkDocs 管理ガイドから Amazon WorkDocs Backup のドキュメントを削除しました。	2021 年 6 月 24 日
Amazon WorkDocs ビジネス向けアマゾンの管理	Amazon WorkDocs for Amazon Businessは、管理者によるユーザー管理をサポートしています。詳細については、『アマゾン管理ガイド』の「Amazon WorkDocs ビジネス向け Amazon WorkDocs の管理」を参照してください。	2020 年 3 月 26 日
Amazon へのファイルの移行 WorkDocs	Amazon WorkDocs 管理者は Amazon WorkDocs Migration Service を使用して、複数のファイルやフォルダを自分の Amazon WorkDocs サイ	2019 年 8 月 8 日

	トに大規模に移行できます。詳細については、『Amazon WorkDocs 管理ガイド』の「Amazon WorkDocs へのファイルの移行」を参照してください。	
[IP allow list] (IP 許可リスト) の設定	IP 許可リストの設定を使用して、Amazon WorkDocs サイトへのアクセスを IP アドレス範囲でフィルタリングできます。詳細については、『Amazon WorkDocs 管理ガイド』の「IP 許可リストの設定」を参照してください。	2018 年 10 月 22 日
ハンコム ThinkFree	ThinkFree ハンコムは利用可能です。ユーザーは、Amazon WorkDocs ウェブアプリケーションから Microsoft Office ファイルを作成し、共同で編集できます。詳細については、『Amazon WorkDocs 管理ガイド』 ThinkFreeの「Hancom を有効にする」を参照してください。	2018 年 6 月 21 日

[Office Onlineで開く]	[Office Onlineで開く] が使用可能になりました。ユーザーは、Amazon WorkDocs ウェブアプリケーションから Microsoft Office ファイルを共同編集できます。詳細については、『Amazon WorkDocs 管理ガイド』の「Office Online での Open の有効化」を参照してください。	2018 年 6 月 6 日
[Troubleshooting] (トラブルシューティング)	トピックのトラブルシューティングを追加しました。詳細については、『Amazon WorkDocs 管理ガイド』の「Amazon WorkDocs の問題のトラブルシューティング」を参照してください。	2018 年 5 月 23 日
リカバリ用ごみ箱の保持期間の変更	リカバリ用ごみ箱の保持期間を変更できるようになりました。詳細については、『Amazon WorkDocs 管理ガイド』の「リカバリビンの保存設定」を参照してください。	2018 年 2 月 27 日